

国立ハンセン病資料館 重監房資料館

2022年度 年報

国立ハンセン病資料館

目 次

第1部 国立ハンセン病資料館	03
第1章 国立ハンセン病資料館の概要	04
Ⅰ 目的・理念・求められる資料館像・機能	04
Ⅱ 運営委員会	06
Ⅲ 国立ハンセン病資料館管理運営規程	10
Ⅳ 組織	13
Ⅴ 沿革	15
Ⅵ これまでの主な事業	16
Ⅶ 施設概要	23
第2章 2022年度事業	24
Ⅰ 教育啓発機能	24
1. 語り部活動・講義	
2. 団体見学対応	
3. シンポジウム・講演会等の開催	
4. 資料の貸出	
5. 学校教育との連携	
Ⅱ 展示機能	28
1. 常設展示	
2. 企画展示・特別展示	
Ⅲ 収集・保存機能	31
1. 資料の収集	
2. 収蔵資料の保存・管理	
Ⅳ 調査研究機能	33
1. 収蔵資料に関する調査	
2. 企画展・催事開催のための調査研究	
3. ハンセン病問題・博物館に関する調査研究	
Ⅴ 情報センター機能	35
1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用	
2. 情報提供・検索システム関連業務	
3. 図書室の管理・運営	
4. 印刷物の発行・配布	
Ⅵ 管理・サービス機能	38
1. 施設管理・運営	
2. アンケートの実施	
3. 施設貸出	
4. その他	
Ⅶ 企画調整機能	40
1. 広報活動	
2. 博物館施設、関係諸機関との連携	
Ⅷ 2022年度利用状況	41

第2部 重監房資料館	43
第1章 重監房資料館の概要	44
Ⅰ 目的・理念・機能	44
Ⅱ 運営委員会	45
Ⅲ 重監房資料館管理運営規程	46
Ⅳ 組織	49
Ⅴ 沿革・これまでの主な事業	50
Ⅵ 施設概要	53
第2章 2022年度事業	54
Ⅰ 歴史継承機能	54
1. 資料の収集・保存	
2. 屋外展示（跡地）環境の保全	
3. 調査・研究	
4. その他	
Ⅱ 普及啓発機能	57
1. 語り部活動	
2. 人権学習の支援	
3. 普及啓発のための映像制作活動	
4. イベントの開催	
5. 刊行物の発行	
6. 学校教育支援活動	
7. 広報活動	
8. 栗生楽泉園との連携	
Ⅲ 再現・展示機能	62
1. レクチャー室	
2. エントランス・ホワイエ	
3. 常設展示	
4. 企画展示	
5. その他	
Ⅳ 情報発信機能	65
1. ホームページ	
2. 広報資料の作成・発行	
3. マスコミ対応	
4. その他	
Ⅴ 管理機能	66
1. 新型コロナウイルス感染防止対応	
2. 施設運用のための必要機能の整備	
Ⅵ 2022年度利用状況	67
利用案内	68

第 1 部 国立ハンセン病資料館

第1章 国立ハンセン病資料館の概要

I 目的・理念・求められる資料館像・機能

【目的】

「ハンセン病問題の早期かつ全面的解決に向けての内閣総理大臣談話」、「ハンセン病療養所入所者等に対する補償金の支給等に関する法律」前文及び第11条（名誉の回復等）、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」第18条（名誉の回復及び死没者の追悼）に基づき国が実施する普及啓発活動の一環として、患者・元患者とその家族の名誉回復を図るために、ハンセン病問題に関する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消を目指す。

【理念】

1. ハンセン病資料館は、ハンセン病に関する知識の普及や理解の促進に努めます
2. ハンセン病資料館は、ハンセン病にまつわる偏見や差別、排除の解消に努めます
3. ハンセン病資料館は、ハンセン病に対する、古代以来の長年にわたる偏見・差別、とりわけ誤った隔離政策の歴史に学び、苦難や被害を被った人々の体験と、これらに立ち向かった姿を示します
4. ハンセン病資料館は、ハンセン病にまつわる苦難や被害を被った人々の名誉回復を目指し、人権尊重の精神を養うことに努めます
5. ハンセン病資料館は、ハンセン病にまつわる苦難や被害を被った人々と社会との共生の実現に努めます

【求められる資料館像】

■普及啓発の拠点

ハンセン病に関する中核施設として、各療養所と連携を図りながら、ハンセン病についての医学的知識、治療の歴史、患者・元患者に対する偏見・差別の歴史、その苦難の体験についての情報を社会に示し、ハンセン病への理解を促進する。そして、それをもとに来館者が人権等の問題について考える場を提供する。

■情報の拠点

ハンセン病に関するあらゆる情報を受信・集積し、後世に継承するとともに、同様の取り組みを実施している国内外の関連組織との連携を図り、広く世界へ発信する。

■交流の拠点

資料館において語り部や患者・元患者との交流を促進する。

【機能】

■教育啓発機能

資料の収集保存や調査研究活動等によって得られた成果を、教育啓発を通じて一般に示し、ハンセン病に関する理解促進と偏見・差別・排除の解消を目指す。

■展示機能

教育啓発機能と同様に、資料を収集保存し調査研究活動を行い、その結果得られた成果を展示を通じて公開し、ハンセン病に関する理解促進と偏見・差別・排除の解消を目指す。

■収集保存機能

資料の散逸を防ぎ、適切な形で後世に継承するため、ハンセン病に関わる資料を収集、保存する。

■調査研究機能

ハンセン病に関わるさまざまな調査研究を行い、教育啓発や展示活動等、資料館活動に有効なものとする。

■情報センター機能

ハンセン病に関わる情報の受発信と集積を行うとともに、全国の関連機関との連携を図る。

■管理サービス機能

円滑な資料館運営を行うとともに、利用者の利便性を図る活動を実施する。

■企画調整機能

館内の各活動を円滑に行うための連絡調整や、全国の関連機関との連携促進、資料館の存在・その意義を認知させるための活動を行う。

Ⅱ 運営委員会

1) 目的

国立ハンセン病資料館の運営方針、事業計画、学術事項等に関する議論、検討を行い、円滑な実施を図るために行う。委員の任命および招集は館長が行う。本年度の運営委員は以下のとおり。

2) 2022年度委員（敬称略）

委員長

内田 博文（国立ハンセン病資料館 館長）

委員（50音順）

赤沼 康弘（弁護士）

飯塚 賢治（国立ハンセン病資料館 事務局長）

岩倉 慎（厚生労働省健康局難病対策課 課長補佐）

君塚 仁彦（国立大学法人東京学芸大学 教授）

黒尾 和久（重監房資料館 部長）

澤田 泉（NPO法人東村山生き生きまちづくり 理事長）

柴田すい子（ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会副会長）

平沢 保治（元国立ハンセン病資料館 語り部）

藤崎 陸安（全国ハンセン病療養所入所者協議会 事務局長）

星野 奈央（国立ハンセン病資料館 事業部長）

正木 尚彦（国立療養所多磨全生園 園長）

3) 開催日

第1回 2022年6月7日 第2回 2022年10月27日

第3回 2023年2月10日

【参考】ハンセン病資料館等運営企画検討会

1) 趣旨

国立ハンセン病資料館（以下「資料館」という。）の管理運営については、展示機能はもとより当該資料館の様々な機能を十分に発揮し、活動を円滑に推進すること、諸機能の質を維持しさらに発展していくこと、利用者の幅広いニーズに応え活発な事業展開を行っていくこと等を念頭に、資料館の特性を踏まえた管理運営を実現することが必要である。

このため厚生労働省が「ハンセン病資料館等運営企画検討会」を開催し、健康局長の諮問に応じて資料館の運営のあり方等の検討を行い、助言を与えるものとする。

2) 参集者（敬称略 50音順）

鮎京真知子（弁護士、ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護団連絡会）

大谷 礼子（埼玉県立戸田かけはし高等特別支援学校 教頭）

坂元 茂樹（座長、公益財団法人人権教育啓発推進センター 理事長）

志村 康（ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会 会長）

鈴木 真理（青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授）

半田 昌之（公益財団法人日本博物館協会 専務理事）

日比野守男（ジャーナリスト）

箕田 誠司（ハンセン病療養所施設長協会会長、国立療養所菊池恵楓園 園長）

森 和男（全国ハンセン病療養所入所者協議会会長）

渡邊 明彦（公益社団法人日本広報協会常務理事）

3) 開催日

第1回	2007年11月19日	第2回	2008年3月21日
第3回	2008年12月5日	第4回	2009年3月11日
第5回	2009年10月20日	第6回	2010年5月21日
第7回	2011年5月27日	第8回	2012年5月23日
第9回	2013年5月16日	第10回	2014年5月27日
第11回	2015年5月27日	第12回	2016年6月1日
第13回	2016年12月6日	第14回	2017年1月26日
第15回	2017年3月13日	第16回	2017年6月2日
第17回	2018年2月27日	第18回	2018年5月31日
第19回	2018年12月19日	第20回	2019年5月29日
第21回	2020年1月31日	第22回	2020年11月26日
第23回	2021年3月18日	第24回	2021年9月17日
第25回	2022年3月9日	第26回	2022年8月26日
第27回	2023年1月17日		

【参考】展示見直し検討会

1) 趣旨

国立ハンセン病資料館は、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」（平成20年法律第82号）第18条に基づき、ハンセン病及びハンセン病対策の歴史に関する正しい知識を普及啓発し、ハンセン病の患者であった者等及びその家族の名誉の回復を図ることを目的とした施設である。

平成19年の再開館から10年以上が経過し、ハンセン病問題に係る新たな資料や調査結果が多数報告されるなど、展示情報の見直しが必要となっていることから、展示内容について検討を行い、その目的に沿った展示の充実を図るため、厚生労働省が「国立ハンセン病資料館常設展示見直し検討会」を開催する。

2) 参集者（50音順 肩書き）

赤沼 康弘（ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護団連絡会）
蘭 由岐子（追手門学院大学 教授）
石田 裕（天草市立牛堀市民病院 非常勤医師（国立療養所邑久光明園 前園長）
内田 博文（座長、九州大学 名誉教授）
遠藤 隆久（熊本学園大学 名誉教授）
太田 明夫（ハンセン病問題を共に学び共に闘う全国市民の会 会長）
君塚 仁彦（東京学芸大学 教授）
黒坂 愛衣（東北学院大学 准教授）
鈴木 利廣（すずかけ法律事務所 弁護士）
豎山 勲（ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会 事務局長）
畑野研太郎（日本キリスト教海外医療協力会 会長）
浜崎 眞実（カトリック司祭）
藤崎 陸安（全国ハンセン病療養所入所者協議会 事務局長）

3) 開催日

第1回	2020年11月10日	第2回	2021年3月18日
第3回	2021年9月3日	第4回	2022年7月25日

【参考】展示見直し検討会ワーキンググループ

1) 趣旨

国立ハンセン病資料館常設展示見直し検討会開催要綱の4に基づき、資料館の常設展示の見直しに関する具体的な検討を行わせるため、必要に応じて検討会の下にワーキンググループを開催できるとされており、ワーキンググループのメンバーは、構成員の中から座長が指名する者で構成するものとする。

2) 参集者（50音順 肩書き）

赤沼 康弘（ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護団連絡会）

遠藤 隆久（熊本学園大学 名誉教授）

君塚 仁彦（東京学芸大学 教授）

黒坂 愛衣（東北学院大学 准教授）

鈴木 利廣（座長、すずかけ法律事務所 弁護士）

浜崎 眞実（カトリック司祭）

3) 開催日

第1回 2021年11月1日 第2回 2022年1月27日

第3回 2022年2月18日

Ⅲ 国立ハンセン病資料館管理運営規程

最終改正：2016年2月25日

（目的）

第1条 この規程は、国立ハンセン病資料館（以下「資料館」という。）の管理運営を円滑に行うために必要な事項を定める。

（事業）

第2条 資料館は、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」（2008年法律第82号）第18条に基づき国が実施する普及啓発活動の一環として、ハンセン病に対する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消及びハンセン病患者・元患者の名誉回復を図るため、次に掲げる事業を行う。

（1）教育啓発事業

ハンセン病に関する文献、実物（民俗、文書、美術、工芸、建築、遺構等）、模型、写真、フィルム、音声、映像、記事、オーラルヒストリー等の資料（以下「資料」という。）について、常設展示・映像ホールを活用して広く公開するとともに、情報を提供する。また、入所者その他の関係者による語り部活動、医療従事者による看護学校学生への医学的な講義等を通じた教育啓発の推進を図る。

（2）展示事業

資料の収集保存、調査研究の成果を常設展示・特設展示等を通じて公開する。

（3）収集保存事業

資料の散逸を防ぎ、適切な形で後世に継承するため必要な資料及び図書を継続的に収集し、適切に保存する。

（4）調査研究事業

ハンセン病に関する事象の調査研究を行い、教育啓発等の活動に有効に資する。

（5）情報センター事業

資料館の情報システムを活用した情報の受発信及び集積を行い、国内外の関連施設との連携を図る。

（6）管理・サービス事業

円滑な資料館運営を行い、利用者の利便や普及活動の推進を図る。

（7）企画調整事業

資料館の活動を行うための連絡調整や全国の関連施設との連携の促進、資料館の存在意義を認知させるための活動を行う。

（年間事業計画）

第3条 国立ハンセン病資料館長（以下「館長」という。）は、毎年、翌年度の年間事業計画を作成し、厚生労働省に提出するものとする。

2 年間事業計画には、当該年度の事業計画の大綱、重点施策、テーマに基づく調査研究、企画展・特別展、資料の収集及び保存、普及啓発活動の具体案等を明記する。なお、軽微な場合を除き、年間事業計画を変更しようとするときは、厚生労働省に変更計画を提出するものとする。

(休館日及び開館時間)

第4条 資料館の休館日及び開館時間は、次のとおりとする。ただし、厚生労働省と協議して、休館日又は開館時間を変更することができる。

(1) 休館日

毎週月曜日（祝日の場合は次の日）、年末年始（12月29日から翌年1月3日まで）、国民の祝日の翌日、館内整理日

(2) 開館時間

午前9時30分から午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

(3) 臨時休館日

その他不測の事態及び資料館の維持管理上必要やむを得ない場合があるときは、臨時に休館日とすることができる。

(入館料)

第5条 資料館の入館料は、無料とする。

(入館の制限)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

- (1) 資料、建物若しくはその附属設備をき損し、他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になる物品若しくは動物の類（盲導犬・聴導犬等を除く。）を携帯する者
- (2) 公の秩序又は公共の風俗を乱すおそれがある者
- (3) その他職員の指示に従わない者および資料館の管理運営上支障があると認められる者

(入館者への指導)

第7条 職員は、入館者に対して次に掲げる事項を守るよう指導しなければならない。入館者がこの指導に従わないときは、退館させることができる。

- (1) 資料等をき損、または汚損するおそれのある行為をしないこと。
- (2) 備え付けの備品を勝手に移動させないこと。
- (3) 所定の場所以外で飲食又は喫煙をしないこと。
- (4) 大声を発すること、暴力を用いることその他の他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (5) 物品（文書及び図面等を含む。）の販売又は提供をしないこと。
- (6) 勧誘、寄付募集その他これに類する行為をしないこと。
- (7) 座込みその他通行の妨害になるような行為をしないこと。
- (8) 立入りを禁止した場所に立ち入らないこと。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、資料館の運営の妨げになる行為をしないこと。

(損害賠償)

第8条 館長は、資料館の資料又は建物若しくはその附属設備等をき損し、又は滅失した者が判明したときは、その者に対し相当と認める損害の賠償を求めなければならない。

(資料等の亡失・損傷)

第9条 館長は、資料・備品に亡失・損傷その他の事故があったときには、その品名、数量、原因その他必要な事項を速やかに厚生労働省に報告する。

(入館者の傷害事故等)

第10条 職員は、入館者が館内において傷害を負った場合は、直ちに応急措置を施すとともに、傷害の状況、負傷者の住所、氏名、連絡先等を事務局長に報告する。

- 2 事務局長は、当面の対策について指示するとともに、事後の措置に万全を期さなければならない。
- 3 前2項の規定は、入館者が病気等のために休憩場所の提供の申し出があった場合について準用する。

(土地、建物および設備等の管理)

第11条 土地、建物及び設備等の管理責任者は、館長とする。

- 2 館長は、土地、建物及び設備等が滅失、損傷した場合は、速やかに厚生労働省に報告し、指示を受ける。

(施設の使用)

第12条 館の管理する土地、建物、設備等の施設は、館長が業務運営上必要であると認めるときは、第三者に使用させることができる。

(使用者の責任)

第13条 第8条の規定は、施設の使用者が資料館の施設、設備、資料等に損害を与えた場合について準用する。

(資料の寄贈及び寄託)

第14条 第2条各号に掲げる事業に係る資料（以下「資料」という。）の寄贈を受け入れたときは、寄贈資料受入整理簿に必要な事項を記載し、寄贈者に資料受領書を速やかに交付する。

- 2 資料の寄託は、あらかじめ寄託者と期間を取り決めた上で「寄託資料受入整理簿」に必要事項を記載し、寄託者に資料受領書を速やかに交付する。また、寄託者が期間前に資料の返還を受けようとするときは、寄託物返還申込書を提出する。

(資料の管理)

第15条 展示資料・収蔵資料等については、常に温湿度等の管理に注意し、異常が生じた場合は、速やかに対応するものとする。

(館長への委任)

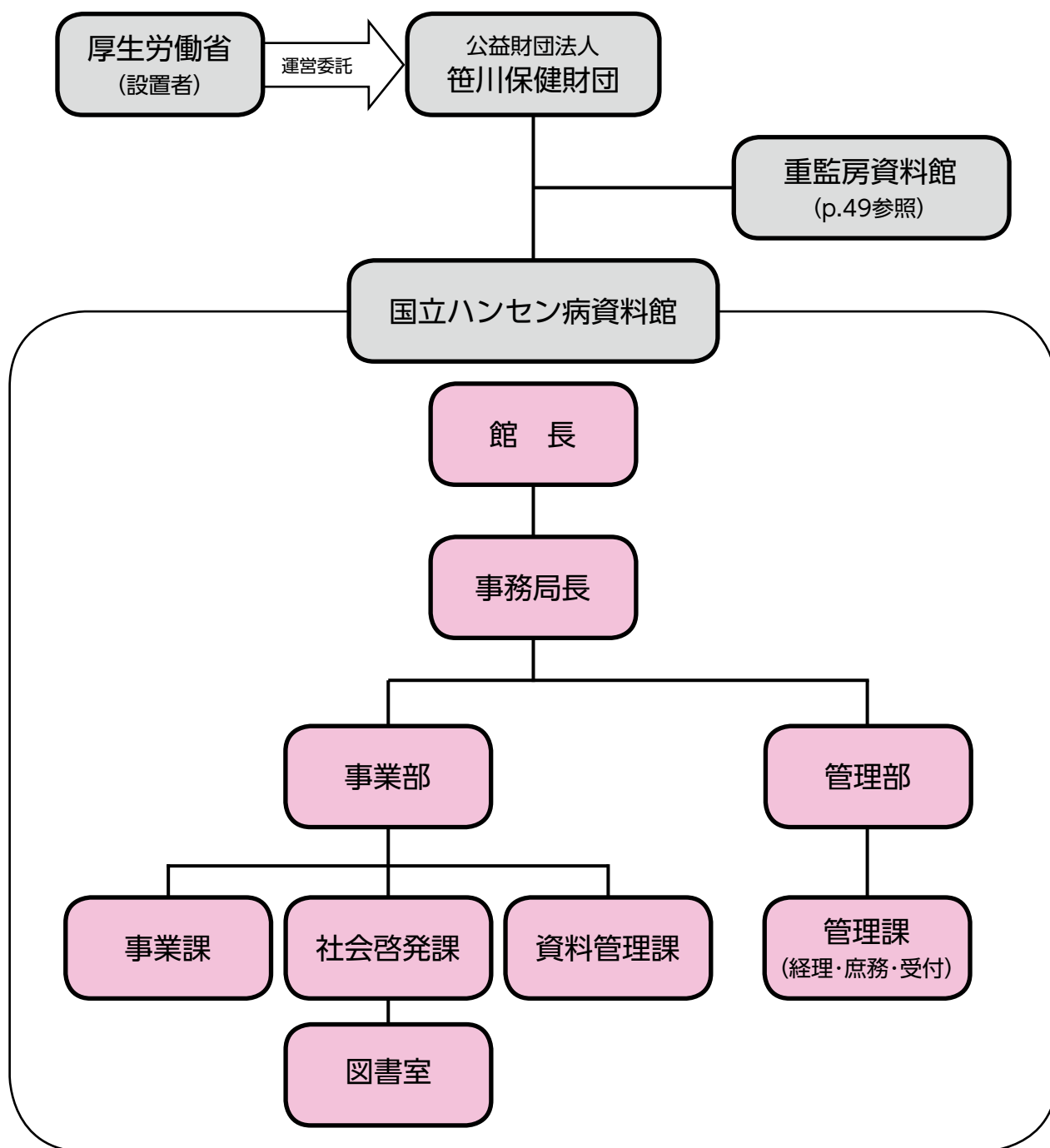
第16条 この規程に定めるもののほか、資料館の管理運営に関し必要な事項は、館長が定める。

附 則

この規程は、2016年2月25日から施行する。

IV 組織

■組織図



■職員名簿 2023年3月31日現在

- ・館長 内田 博文
- ・事務局長 飯塚 賢治

- ・事業部 部長 星野 奈央
- 事業課 学芸員 課長 西浦 直子
- 〃 主任 木村 哲也
- 〃 田代 学
- 〃 吉國 元
- 社会啓発課 学芸員 課長 大高俊一郎
- 〃 主任 金 貴 粉
- 〃 牛嶋 涉
- 司書 長谷川秋菜
- 司書補佐 斉藤 聖
- 資料管理課 課長 星野 奈央 (兼)
- 学芸員 橋本 彩香

- ・療養所 学芸員 澤田 大介 (松丘保養園 社会交流会館学芸員)
- 〃 干川 直康 (栗生楽泉園 社会交流会館学芸員)
- 〃 樋口 安奈 (栗生楽泉園 社会交流会館学芸員)
- 〃 石井 千尋 (多磨全生園 学芸員)
- 〃 杉山富貴子 (駿河療養所 駿河ふれあいセンター学芸員)
- 〃 主任 田村 朋久 (長島愛生園 歴史館学芸員)
- 〃 木下 浩 (長島愛生園 歴史館学芸員)
- 〃 玉田 美紗 (長島愛生園 歴史館事務員)
- 〃 太田由加利 (邑久光明園 社会交流会館学芸員)
- 〃 池永 禎子 (大島青松園 社会交流会館学芸員)
- 〃 主任 原田 寿真 (菊池恵楓園 歴史資料館学芸員)
- 〃 原田 玲子 (星塚敬愛園 社会交流会館学芸員)
- 〃 主任 辻 央 (沖縄愛楽園 交流会館学芸員)
- 〃 鈴木 陽子 (沖縄愛楽園 交流会館学芸員)

- ・管理部 部長 芳川 龍郎
- 管理課 課長 菅原 広恵
- 及川由紀子
- 千代倉裕子
- 赤石 和子
- 中島 久行

V 沿革

1990年	財団法人藤楓協会が創立40周年記念事業として資料館建設を計画し、有識者・各園園長・自治会長らからなるハンセン病資料調査会が発足（7月）。
1992年	資料館建築起工式（施工／建築：佐藤工業 展示：自主）（6月）。
	多磨全生園に高松宮記念ハンセン病資料館建設促進対策委員会設置（7月）。
	全国16園・関係機関から資料収集（10月～12月）。
	展示プラン作成（12月）。
1993年	高松宮記念ハンセン病資料館開館（運営委託先：財団法人藤楓協会）（6月）。
1994年	ハンセン病予防事業対策調査検討委員会の大谷藤郎座長が、「らい予防法」廃止と在園保障を柱とする「大谷見解」を表明（4月）。
1996年	「らい予防法」廃止（4月）。
2000年	財団法人日本船舶振興会（現日本財団）の協力により、当館の図書室・収蔵庫等の拡張、全園の資料保存を目的としたハンセン病資料保存検討委員会が発足（8月）。
2001年	ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟で原告勝訴（熊本地裁）。控訴期限当日に控訴断念の旨を盛り込んだ「ハンセン病問題の早期かつ全面的解決に向けての内閣総理大臣談話」が発表され、熊本地裁判決確定。総理談話にハンセン病資料館の充実も盛り込まれる（5月）。
	「ハンセン病療養所入所者等に対する補償金の支給等に関する法律」成立（6月）。
	国賠訴訟の原告と被告との基本合意（7月）に基づき設置されたハンセン病問題対策協議会で、ハンセン病資料館の予算・施設・人的態勢の充実を確認（12月）。
2002年	国による名誉回復措置の一環としてハンセン病資料館を拡充することを目的に、厚生労働省がハンセン病資料館施設整備等検討懇談会を設置（5月）。
2003年	財団法人藤楓協会解散（3月）、資料館運営委託先が社会福祉法人ふれあい福祉協会に変更（4月）。
	開館10周年（6月）。
2004年	ハンセン病資料館施設整備等検討懇談会が「ハンセン病資料館の拡充にかかる基本計画書」を提出（3月）。
2005年	新館建築・展示リニューアル工事のため一時休館（施工／建築：佐藤工業 展示：丹青社）（9月）。
2006年	新館落成、展示工事開始（10月）。
	展示プラン完成（2月）。
2007年	国立ハンセン病資料館としてリニューアルオープン（3月）。
	厚生労働省がハンセン病資料館等運営企画検討会を設置（11月）。
2008年	「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」（通称「ハンセン病問題基本法」、翌年4月施行）の制定によりハンセン病資料館存立の法的根拠が確立（6月）。
2009年	資料館運営委託先が財団法人日本科学技術振興財団に変更（4月）。
2013年	開館20周年（6月）。
2014年	学芸部を新設し、同部に学芸課と社会啓発課を設置（8月）。
2016年	資料館運営委託先が公益財団法人日本財団に変更（4月）。
2018年	学芸部を事業部に、学芸課を事業課に変更し、資料管理課を新設。管理部を新設し、総務課を管理課に変更（4月）。
2020年	資料館運営委託先が公益財団法人笹川保健財団に変更（4月）。

Ⅵ これまでの主な事業

1993年	高松宮記念ハンセン病資料館開館（6月）
	「多磨全生園・神山復生病院 昔むかし写真展」開催（4月～6月）
1994年	開館1周年記念シンポジウム「らい予防法改正問題をめぐって」開催（6月）
	「国吉信遺作展」開催（9月～10月）
	「菊池恵楓園・琵琶崎待労病院 昔むかし写真展」開催（4月～6月）
1995年	『ハンセン病資料館』刊行（5月）
	開館2周年記念フォーラム「ハンセン病の歴史を探る」開催（6月）
	開館3周年を記念し、「らい予防法廃止について」をテーマに評論を募集（4月）
1996年	「呂久光明園・大島青松園 昔むかし写真展」開催（5月～6月）
	開館3周年記念シンポジウム「これからをどう生きるか」開催（6月）
	「趙昌源絵画展 韓国小鹿島の光と影」開催（10月～11月）
	「好善社慰廃園回顧展」開催（3月～4月）
1997年	「松丘保養園・長島愛生園 昔むかし写真展」開催（5月～6月）
	講演会「ハンセン病の偏見・差別を越えて」開催（11月）
	「栗生楽泉園・星塚敬愛園 思い出の写真展」開催（5月～6月）
1998年	「趙昌源絵画と入園者作品展」開催（9月）
	開館5周年記念「趙根在（遺作）写真展 ハンセン病の光と影」開催（10月～11月）
	『高松宮記念ハンセン病資料館 開館5周年のあゆみ』刊行（12月）
	「写真展・沖縄2園の今昔」開催（5月～6月）。
1999年	開館6周年記念「趙昌源講演会 国立小鹿島病院の思い出と韓国のハンセン病事情」開催（6月）
	「陶芸展・全生焼&写真展・全生園の森展」開催（10月～11月）
	「芦村カズヨ絵画展」開催（1月）
2000年	「写真展「駿河療養所」&写生画「東村山30景展」」開催（2月～3月）
	「思い出の東北・奄美写真展」開催（5月～6月）
	開館7周年記念「長島愛生園展」開催（10月～11月）
	らい予防法廃止5周年記念学習会「『らい予防法』とはなにか？ ー法律と市民社会ー」開催（全3回、3月～5月）
2001年	開館8周年記念講演会、鶴見俊輔「ハンセン病との出逢いから」開催（7月）
	開館8周年記念「菊池恵楓園展」開催（10月～11月）
2002年	開館9周年記念映画会「千と千尋の神隠し」開催（7月）
	開館9周年記念「呂久光明園展」開催（10月～11月）
	開館10周年記念「松丘保養園展」開催（6月～7月）
2003年	開館10周年記念事業として、大谷藤郎講演会「近代の論理とハンセン病」と、ひとり芝居「をぐり考」を開催（6月）
	開館10周年記念「多磨全生園展」開催（10月～12月）
2004年	『高松宮記念ハンセン病資料館10周年記念誌』刊行（10月）
2005年	開館12周年記念「各園むかし写真展」開催（6月～8月）
	常設展示リニューアル（3月）
2007年	国立ハンセン病資料館再開館式（3月）
	リニューアルオープン記念「趙昌源絵画展 ー小鹿島の光と影ー」開催（4月～5月）

2007年	2007年度秋季企画展「こころのつくろい ―隔離の中での創作活動―」開催（10月～12月）
	講演・ハーモニカ演奏会、近藤宏一「青い鳥楽団と私」開催（秋季企画展付帯事業、11月）
2008年	2008年度春季企画展「ハンセン病療養所の現在」開催（4月～6月）
	連続講演会「療養所の歴史を語る」開催（春季企画展付帯事業、全4回、6月）
	2008年度秋季企画展「ちぎられた心を抱いて ―隔離の中で生きた子どもたち―」開催（9月～11月）
	『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2008』刊行（9月）
	『国立ハンセン病資料館年報 第1号 平成19（2007）年度』刊行（10月）
2009年	企画展「北高作陶展 ―仲間に支えられて―」開催（1月～3月）
	企画展「多磨全生園陶芸室のあゆみ」開催（1月～3月）
	「隔離の百年」のプレ企画として「公立療養所写真パネル展」開催（4月～6月）
	2009年度企画展「隔離の百年 ―公立療養所の誕生―」開催（7月～12月）
	シンポジウム「隔離の記憶を掘る ～全生病院「患者地区」を囲んだ「堀・土塁」～」開催（企画展付帯事業、9月）
	『国立ハンセン病資料館年報 第2号 平成20（2008）年度』刊行（10月）
2010年	国際ハンセン病政策シンポジウム（第1回）「ハンセン病医療政策と資料保存 ―日本とノルウェー―」開催（金沢大学との共催、1月）
	企画展「桃生小富士展」（1月～2月）
	Everlyコンサート開催（企画展付帯事業、2月）
	『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2009』刊行（3月）
	『国立ハンセン病資料館ブックレット1 シンポジウムの記録 隔離の記憶を掘る～全生病院「患者地区」を囲んだ「堀・土塁」～』刊行（3月）
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第1号』刊行（3月）
	『国立ハンセン病資料館ブックレット2 ハンセン病関連法令等資料集』刊行（3月）
	『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行（3月）
	2010年度春季企画展「着物にみる療養所の暮らし」開催（4月～7月）
	『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21（2009）年度』刊行（8月）
	2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く ―写された20世紀前半の療養所」開催（9月～12月）
2011年	企画展「高山勝介作陶展」開催（2月～3月）
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行（3月）
	2011年度春季企画展「かすかな光をもとめて―療養所の中の盲人たち―」開催（4月～7月）
	企画展「いのちの詩 塔和子展」開催（「塔和子の会」との共催、5月～6月）。
	講演会、タケカワユキヒデ「多磨盲人会ハーモニカバンドの思い出」開催（春季企画展付帯事業、6月）
	企画展「伊藤秋夫写真展」開催（8月～9月）
	2011年度秋季企画展「たたかいつづけたから、今がある ―全療協60年のあゆみ―」開催（10月～12月）
	連続講演会「わたしの運動の記憶」開催（秋季企画展付帯事業、全4回、11月～12月）
2012年	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第3号』刊行（3月）
	2012年度春季企画展「青年たちの「社会復帰」 ―1950 - 1970―」開催（4月～7月）
	講演会、中修一「“社会復帰10年” ―中修一さん 2回の社会復帰をとおして―」開催（春季企画展付帯事業、6月）

2012年	特別企画展「北高作陶展」を奈良県天理市で開催（9月）
	『国立ハンセン病資料館年報 第4号 平成22（2010）年度』刊行（3月）
	2012年度秋季企画展「癪院記録 ―北條民雄が書いた絶対隔離下の療養所―」開催（10月～12月）
	講演会、清原工「北條民雄・人と作品」開催（秋季企画展付帯事業、11月）
	『国立ハンセン病資料館年報 第5号 平成23（2011）年度』刊行（11月）
2013年	『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2012』刊行（1月）
	『国立ハンセン病資料館ブックレット3 看護の足もと “看護の行為と看護の原理”を問ひなおす』刊行（2月）
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第4号』刊行（3月）
	2013年度春季企画展「一遍聖絵・極楽寺絵図にみるハンセン病患者 ～中世前期の患者への眼差しと処遇～」開催（5月～8月）
	講演会、田中密敬「極楽寺境内絵図を紐解く」開催（春季企画展付帯事業、6月）
	開館20周年記念展開催（6月～7月）
	開館20周年記念式典開催（6月）
	『国立ハンセン病資料館 20周年記念誌』、『資料館だより』復刻版 ―20年のあゆみ― 第1号（1993年10月）- 第79号（2013年4月1日）』刊行（6月）
2014年	開館20周年記念講演会、日野原重明「ハンセン病の患者に生涯を捧げた神谷美恵子医師の生き方」開催（6月）
	講演会、遠山元浩「一遍聖絵の世界」開催（春季企画展付帯事業、7月）
	2013年度秋季企画展「想いでできた土地 多磨全生園の記憶・くらし・望みをめぐる」開催（10月～12月）
	多磨全生園現地ガイドツアー開催（秋季企画展付帯事業、全6回、10月～12月）
	開館20周年記念座談会「資料館の設立、活動、これからへの期待を語る」開催（11月）
	『国立ハンセン病資料館年報 第6号 平成24（2012）年度』刊行（12月）
	特別企画展「林志明作品展 ―中国ハンセン病回復者の書画活動―」開催（4月～5月）
	講演会、林志明「私と書画活動」開催（特別企画展付帯事業、4月）
	2014年度春季企画展「不自由者棟の暮らし ―ハンセン病療養所の現在―」開催（4月～7月）
	講演会、山内和雄「沖縄愛楽園の不自由者棟」開催（春季企画展付帯事業、6月）
	東京都公文書館にて、同館との共催企画展「人権の歴史とアーカイブズ ―ハンセン病、隔離の歴史を超えて―」開催（10月～12月）
	2014年度秋季・2015年度春季企画展「この人たちに光を ―写真家趙根在が伝えた入所者の姿―」開催（11月～2015年5月）
2015年	講演会、大竹章「趙根在の写真を語る」開催（秋季・春季企画展付帯事業、11月）
	『国立ハンセン病資料館年報 第7号 平成25（2013）年度』刊行（3月）
	絵本『すみれ』（文：北條民雄、絵：山崎克己）刊行（3月）
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第5号』刊行（3月）
	「北條民雄生誕100年絵本「すみれ」刊行記念原画展」開催（7月）
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催（8月）
	2015年度秋季企画展「私立ハンセン病療養所 待労院の歩み ―創立から閉院までの115年―」開催（10月～12月）
2016年	絵本『かわいいポール』（文：北條民雄、絵：おぼまこと）刊行（3月）

2016年	『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成26 (2014) 年度 年報』刊行 (3月)
	2016年度春季企画展「らい予防法」をふりかえる」開催 (4月～7月)
	講演会、長田浩志「全患協と共に歩んだ「らい予防法廃止」への道のり」開催 (春季企画展付帯事業、7月)
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催 (8月)
	2016年度秋季企画展「生きるための熱 ―スポーツにかける入所者たち―」開催 (10月～12月)
	「あなたもゲートボールデビュー」開催 (秋季企画展付帯事業、11月)
	野球談議「嗚呼、新良田教室野球部！！」開催 (秋季企画展付帯事業、12月)
2017年	「多磨全生園内「全生学園跡地」における「堀」の現地見学会」開催 (1月)
	「若松若太夫師匠の説経節の公演」開催 (2月)
	『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成27 (2015) 年度 年報』刊行 (2月)
	「多磨全生園内「土塁・堀の考古学調査」についての成果報告会」開催 (3月)
	2017年度春季企画展「ハンセン病博物館へようこそ」開催 (4月～7月)
	「「ハンセン病博物館へようこそ」各館活動報告会」開催 (春季企画展付帯事業 7月)
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催 (7月・8月)
	夏休み自由研究応援企画「多磨全生園のフォトブックを作ろう」開催 (8月)
	2017年度秋季企画展「隔離のなかの食 ―生きるために悦びのために―」開催 (9月～12月)
	講演会「ハンセン病療養所の食の現在 ―国立療養所邑久光明園から―」開催 (秋季企画展付帯事業、11月)
2018年	「ハンセン病体験講話 ～ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか～」開催 (11月～3月)
	『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成28 (2016) 年度 年報』刊行 (2月)
	佐川修さんを偲ぶ上映会を開催 (4月)
	佐川修さん追悼展を開催 (4月～5月)
	2018年度春季企画展「この場所を照らすメロディ ―ハンセン病療養所の音楽活動―」開催 (4月～7月)
	古典・民謡コンサート開催 (春季企画展付帯事業、7月)
	ギャラリートーク開催 (春季企画展付帯事業、5月～7月)
	ギャラリー展「長渡虹邨展」開催 (6月～7月)
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催 (7月)
	夏休み自由研究応援企画「多磨全生園のフォトブックを作ろう」開催 (7月)
	夏休み自由研究応援企画「回復者へインタビュー！記者になってみよう」開催 (8月)
	「プロカメラマンと撮る全生園」開催 (9月)
	映画「あつい壁」上映会開催 (11月)
	ギャラリー展「生誕100年島比呂志展 ―書くことは生きること―」開催 (11月～12月)
	ギャラリートーク開催 (島比呂志展付帯事業、11月)
	上映会&平沢保治さんトークイベント「親子でハンセン病を学ぼう」開催 (11月)
	2018年度秋季企画イベント「もうひとつの橋 ～邑久長島大橋架橋30周年上映会&トークイベント～」開催 (11月)
	講演会「生誕100年島比呂志の生涯と文学」開催 (12月)
	講演会「ソーシャルワーカーを目指すあなた達に伝えたいこと」開催 (12月)
	「ハンセン病体験講話 ～ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか～」開催 (4月～12月)
2019年	ハンセン病資料館開館25周年記念宮崎駿監督が語る「佐川修さんとハンセン病資料館」開催 (1月)

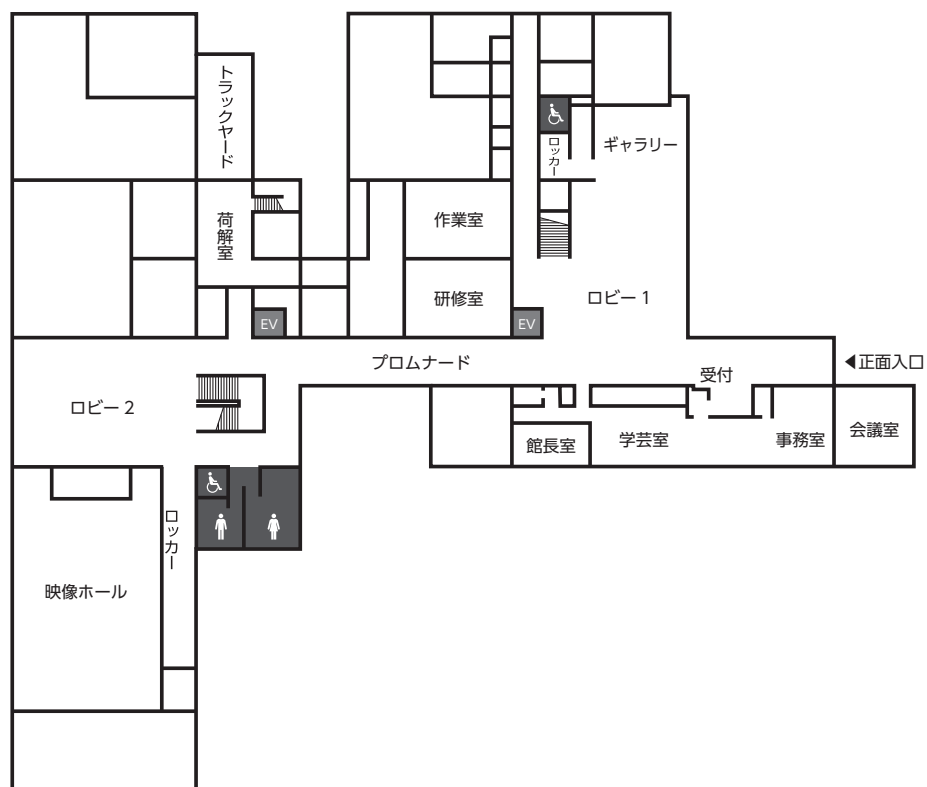
2019年	「ハンセン病体験講話 ～ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか～」開催（2月～12月）
	ビデオ上映会「ハンセン病資料館開館25周年記念宮崎駿監督が語る「佐川修さんとハンセン病資料館」（2月～3月）
	映画「新・あつい壁」上映会開催（3月）
	上映会&韓国舞踊公演「貴重映像でたどる「アリランの会」の軌跡」開催（3月）
	2019年度春季企画展「キャンパスに集う ～菊池恵楓園・金陽会絵画展」開催（4月～7月）
	春季企画展オープニングセレモニー 弦楽四重奏・ヴァイオリンソロ演奏（春季企画展付帯事業 4月）
	ギャラリートーク開催（春季企画展付帯事業 4月～7月）
	お絵かきワークショップ「キャンパスにあつまれ！」開催（春季企画展付帯事業 5月）
	映画「あん」上映会開催（5月）
	ギャラリー展「太田明写真展」開催（5月～6月）
	トーク企画「生きるための絵」開催（春季企画展付帯事業 6月）
	講演会「金陽会の作家たち、その素顔」と木管三重奏のクラシックコンサート開催（春季企画展付帯事業 6月）
	講演会「報道マンに訪れた“人間回復” ～ハンセン病回復者との出会いから～」開催（6月）
	金陽会絵画館蔵品展開催（春季企画展付帯事業、7月）
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催（7月）
	夏休み自由研究応援企画「多磨全生園のフォトブックを作ろう」開催（7月）
	夏休みスペシャル！子どもむけ展示解説開催（8月）
	ギャラリー展「追悼高山勝介作陶展」開催（8月）
	夏休み自由研究応援企画「回復者へインタビュー！記者になってみよう」開催（8月）
	映画「ふたたび」上映会開催（8月）
	講演会「ハンセン病問題を学び、伝えるということ ～学校現場から～」開催（8月）
	「第25回ICOM（国際博物館会議）京都大会2019文化をつなぐミュージアム ―伝統を未来へ―」出展（9月）
	ギャラリー展「第25回ICOM（国際博物館会議）京都大会2019文化をつなぐミュージアム ―伝統を未来へ―」出展報告・展示紹介（9月）
	2019年度秋季企画展「『望郷の丘』 ―盲人会が遺した多磨全生園の歴史―」開催（9月～12月）
	ギャラリートーク開催（秋季企画展付帯事業、9月～12月）
	フィールドワーク「『望郷の丘』に描かれた多磨全生園を巡る」開催（秋季企画展付帯事業10月～12月）
	講演会「元職員が語る多磨盲人会 ―吉野志げ子さん・亀井義展さんをお招きして」開催（秋季企画展付帯事業 10月）
	ミュージアムトーク2019開催（10月～12月）
	「やってみよう、鈴ボール！盲人会のレクリエーションを体験」開催（秋季企画展付帯事業11月）
	ドキュメンタリー映画「風の子孫たち」上映会開催（11月）
	ギャラリー展「没後60年・志樹逸馬展」開催（11月～12月）
	講演会「志樹逸馬の詩と出会う」開催（ギャラリー展付帯事業 11月、12月）
	記録映画「見えない壁を越えて」上映会開催（11月）
	多磨全生園創立110周年記念事業「親子で学ぶ多磨全生園」開催（11月）
	講演会「家族が語る もうひとつのハンセン病史」開催（12月）
	クリスマスお絵かきイベント「みんなで描こうクリスマスツリー」開催（12月）

2020年	正月イベント「やってみよう！お正月行事」開催（1月）
	「ハンセン病体験講話 ～ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか～」開催（1月～2月）
	ミュージアムトーク2020早春開催（1月～2月）
	職業シリーズ第4弾 講演会「ハンセン病問題と弁護士の使命 ～ハンセン病裁判を闘った弁護士たち～」開催（1月）
	証言映像上映会開催（2月）
	オンラインミュージアムトーク開催（7月～2021年3月）
	企画展「石井正則写真展「13（サーティーン）～ハンセン病療養所の現在を撮る～」」開催（9月～12月）
	オンラインギャラリートーク開催（石井正則写真展付帯事業、10月～11月）
	ライブ配信「職業シリーズ」第5弾 講演会「RADIOハンセン病問題を伝える～メディアの責任・ラジオの可能性～」開催（11月）
	ライブ配信「ハンセン病と人権」セミナー開催（12月）
2021年	ギャラリー展「コロナ時代ハンセン病回復者からのメッセージ」開催（1月～2月）
	オンライン展示解説開催（ギャラリー展「コロナ時代ハンセン病回復者からのメッセージ」付帯事業、2月）
	企画展『『青い芽』の版画展-多磨全生園の中学生が彫った「日常」の風景-』開催（3～6月）
	オンライン朗読会開催（『青い芽』の版画展付帯事業 3月）
	オンラインギャラリートーク開催（『青い芽』の版画展付帯事業 3月）
	オンラインミュージアムトーク開催（4月～2022年3月）
	ギャラリー展 「私たちの上に、今日、青空が広がった「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟判決20周年展」開催（6月）
	夏休み子ども向けオンラインワークショップ「国立ハンセン病資料館で学ぶ はじめての多磨全生園」（7月～8月）
	講演会ライブ配信「渋沢栄一の生涯とハンセン病—その事績と功罪をめぐって—」（8月）
	講演会ライブ配信 職業シリーズ第6弾「山川冬樹氏講演会 —ハンセン病療養所から考える芸術の意味」（9月）
2022年	ギャラリー展「帆船『豊丸』」開催（11月～2022年2月）
	ライブ配信「ハンセン病と人権」セミナー開催（12月）
	講演会ライブ配信 職業シリーズ第7弾「東村山市長の挑戦 —ハンセン病問題の解決に向けた取り組みと想い—」開催（3月）
	企画展「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」開催（3月～8月）
	オンライン・対面ギャラリートーク（「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」付帯事業3月～8月）
	オンラインミュージアムトーク（「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」付帯事業6月）
	写真展「いのちの森に暮らす」（らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日関連事業6月）
2022年	オンラインミュージアムトーク開催（6月～2023年3月）
	ワークショップ「ブリキの義足を作ってみよう」開催（「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」付帯事業7月～8月）

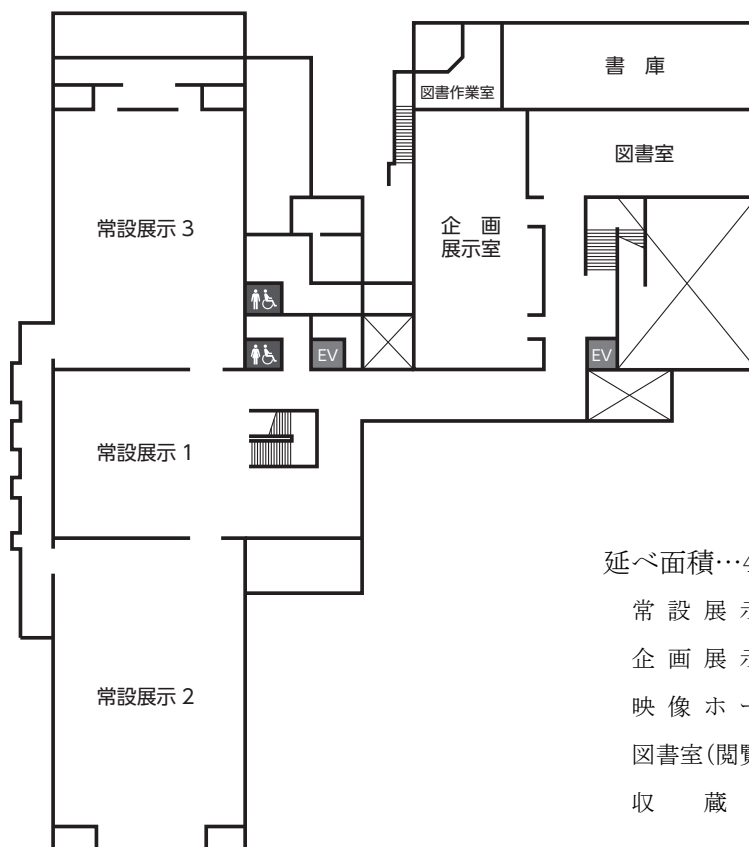
2022年	夏休み子ども向けオンラインワークショップ「ハンセン病資料館で学ぶ はじめての多磨全生園」(7月～8月)
	オンライン・対面講演会「生活のデザインができるまで ー願いをかたちにする人びとー」(「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」付帯事業7月～8月)
	講演会ライブ配信 職業シリーズ第8弾「ハンセン病問題を考える ー裁判と人権擁護の観点からー」(10月)
2023年	ライブ配信「ハンセン病と人権」セミナー開催(1月)
	企画展「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」(2月～5月)
	オンライン・対面ギャラリートーク開催(「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」企画展付帯事業 2月～5月)
	コンサート「青い鳥のハモニカ」(「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」企画展付帯事業2月)
	講演会「ハンセン病患者と文学者はいかにハンセン病問題と関わったのか」(「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」企画展付帯事業 2月)
	講演会「千年先まで言葉を届けるために」(「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」企画展付帯事業 3月)
	講演会「戦後ハンセン病文学を読みなおす」(「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」企画展付帯事業 3月)

VII 施設概要

1 階



2 階



延べ面積…4,350.38 m²

常設展示室…878m²

企画展示室…175m²

映像ホール…195m²

図書室(閲覧室)…116m²

収蔵庫…368m²

第2章 2022年度事業

I 教育啓発機能

1. 語り部活動・講義

1) 館外講演会への講師派遣

学校、自治体、教育委員会等からの依頼に応じ、下記のとおり学芸員等を講師として派遣した。

【講師】 大高俊一郎（当館学芸員、事業部社会啓発課課長）

金 貴粉（当館学芸員）

牛嶋 渉（当館学芸員）

儀同 政一（元当館事業部社会啓発課課長）

【実施団体数】107件（対面74件、オンライン17件、ハイブリッド/録画16件）

【聴衆】11,276名

なお、年間出張講座数が100件を超えたのは、本年度が初めてである。小中学校での出張講座ならびに来館促進を目的とし、本年度は相模原市ならびに川崎市の校長会で計13回にわたり利用促進の依頼を行った他、受託団体の関連団体を通して地方自治体等にも利用促進を依頼した。

2) 体験講話

今年度も新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、回復者等による語りについては対面での実施は休止とした。しかし、高齢化が進む入所者・退所者等の語りや証言も可能なものについてはアーカイブ化しYouTubeチャンネルで公開している。来館前の事前学習での啓発ビデオや語り部動画の視聴を勧めている。今後は当事者自身による語りを直接耳にする機会を得ることは困難なものとなっていくが、オンラインを効果的に活用することにより、当事者の声・語りを残していくことが可能となった。

2. 団体見学対応

本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一環とし、事前予約をして来館する団体来館者に対し、当資料館映像ホールにおけるガイダンス映像、ハンセン病回復者による語り部講演映像の上映、展示見学前ガイダンスを行った。来館が叶わない団体向けの対応として、学芸員が展示室を回りながらオンラインでハンセン病の歴史やハンセン病問題の説明を行う展示解説を行った。

団体来館者

【主な利用団体】看護学校、高校、大学、一般団体

【利用団体・利用者数】134団体、3,305名

オンライン展示解説

【主な利用団体】小学校、看護学校、中学校、高校、大学

【利用団体・利用者数】32団体 2,615名

3. シンポジウム・講演会等の開催

1) オンラインミュージアムトーク2022 第3回「生活のデザインをめぐって」

企画展「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」に関連し、ナイトミュージアム形式の展示解説を行った。

【開催日】2022年6月17日（金）19:00～20:30 zoom配信ライブ

【講師】西浦 直子（当館学芸員）、吉國 元（当館学芸員）

2) オンラインミュージアムトーク2022 第4回「長島愛生園をめぐる多面的な聞き取り調査」

長島愛生園歴史館での入所者の聞き取り調査と資料収集、退職した職員（看護師や義肢装具士、施設管理班職員や電気技師など）への聞き取り調査について講演を行った。

【開催日】2022年8月27日（土）14:00～15:30 zoom配信ライブ

【講師】木下 浩（長島愛生園歴史館学芸員）

3) オンラインミュージアムトーク2022 第5回「松丘保養園のあゆみ」

創立113年目を数える松丘保養園の歩みやここでの生活、文化、文芸などを様々なエピソード、園内の様子や四季の移ろいについて講演を行った。

【開催日】2022年11月19日（土）14:00～15:30 zoom配信ライブ

【講師】澤田 大介（松丘保養園社会交流会館学芸員）

4) オンラインミュージアムトーク2022 第6回「ハンセン病文学の新生面『いのちの芽』の詩人たちをめぐって」

企画展「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」に関連し、担当学芸員が詩作品や資料にふれながら、作者の人となりや作品が生み出された時代背景などを解説する講演を行った。

【開催日】2023年3月3日（金）19:00～20:30 zoom配信ライブ

【講師】木村 哲也（当館学芸員）

5) 夏休み子ども向けオンラインプログラム「ハンセン病資料館で学ぶ はじめての多磨全生園」

小学生の夏休み応援企画として、事前配布のワークシートを使用しながら多磨全生園とハンセン病問題の歴史を伝えるオンライン展示説明と質疑応答を行った

【開催日】2022年7月22日（金）・24日（日）・28日（木）・8月7日（日）・13日（土）

【講師】西浦 直子（当館学芸員）、木村 哲也（当館学芸員）、吉國 元（当館学芸員）

6) 職業シリーズ第8弾「ハンセン病問題を考える ー裁判と人権擁護の観点からー」

ハンセン病国賠訴訟東日本訴訟の裁判長、黒川温泉ホテル宿泊拒否事件の際の法務省人権擁護局長であった吉戒修一氏に講演いただいた。

【開催日】2022年10月8日（土）14:00～15:30 YouTubeライブ配信

【講演者】吉戒 修一氏（弁護士）

7) ハンセン病と人権セミナー

オンラインと対面のハイブリッド開催とし、ハンセン病家族訴訟の原告3名と、それらの方々と

の交流を通してハンセン病問題の学習に取り組んでいる高校生とのトークセッションを行った。

【開催日】2023年1月29日（日）13:30～15:40 zoom配信ライブ

【講演者】ハンセン病家族訴訟原告21番、169番、188番、武蔵高等学校2年生8名、
相川 翼氏（コーディネーター）

4. 資料の貸出

1) 写真パネルの貸出

ハンセン病問題の啓発に資する展示を自ら企画したいという方々を対象に、写真パネルセットの貸出を行った。「全園写真パネル」（全国の療養所における写真パネル46点のセット）、「多磨全生園写真パネル（戦前編）」（多磨全生園の写真パネル19点とタイトル1点のセット）、「たたかいつづけたから、今がある—全療協60年のあゆみ—」（2011年度秋季企画展の展示内容が含まれたパネル一式）の3セットがあり、先方の希望に応じて貸し出した。

【件数】14件

2) 所蔵資料の貸出

当館で所蔵する資料の貸出を希望する団体、個人に対して、資料の貸出を行った。

【件数】8件

3) 啓発用ビデオ、語り部ビデオの貸出

希望する団体に対して当館で作成した下記映像資料（いずれもDVD）の貸出を行った。

【啓発用ビデオDVD】『ハンセン病を知っていますか？』（一般向け、一般向け英語版）、『未来への虹—ぼくのおじさんはハンセン病—』（小学生向け）

【語り部ビデオDVD】『平沢保治さん講演』（小学生中学年編、小学生高学年編、中学生編、教員編、看護学生編、公務員編）、『佐川修さん講演』（中学生編、一般・医療・看護学生編）

4) 啓発資料等作成への協力

ハンセン病に関する啓発資料等の作成にあたり、当館所蔵資料の複製・掲載等を希望する個人、団体に対して、撮影・複製許可等の協力を行った。

【件数】68件、資料撮影3件

5. 学校教育との連携

1) 教材ビデオの配布

小学校を中心とした教育機関におけるハンセン病問題の普及啓発は本年度も継続して行った。教材ビデオ『平沢保治さん講演 小学生中学年編』、『平沢保治さん講演 小学生高学年編』、『平沢保治さん講演 中学生編』、『平沢保治さん講演 教員編』（いずれもDVD）について、希望する学校・教育関係機関に配布した。

【件数】17件 【配布本数】34本

2) その他学習支援

ハンセン病問題啓発ビデオ、語り部講演ビデオやパネル等の貸し出し、語り部講演ビデオの配布、来館の小中学校で希望がある場合には、見学前ガイダンス説明や質問の受付、見学後の振り返り等を行った。

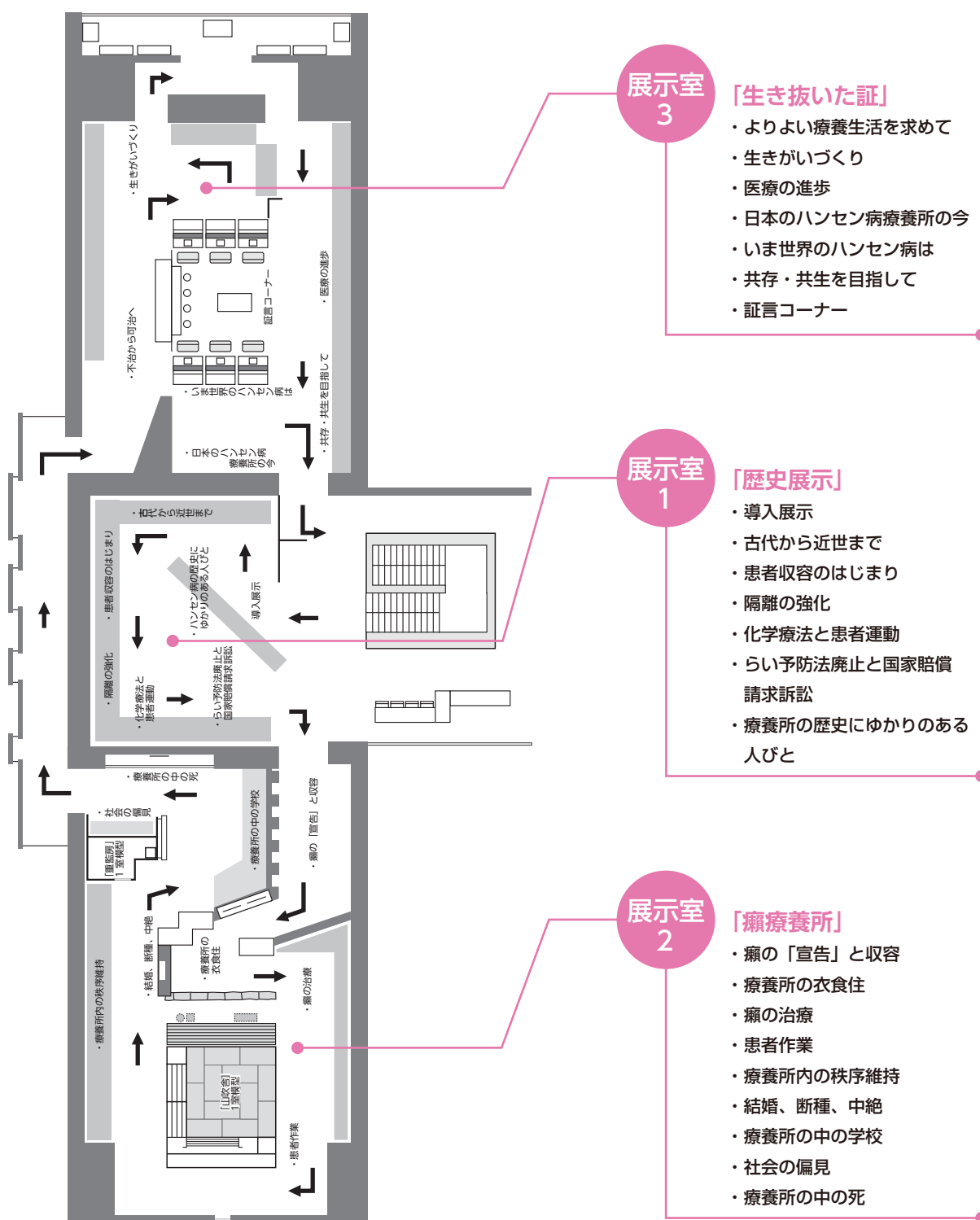
また、対面による出張講座に加えて、オンラインによる展示説明も実施した。小学校を中心とした教育機関に対するハンセン病問題の普及啓発は本年度も継続して行い、学習支援の一環として学習指導案の収集を行い、当資料館ホームページ上に、ハンセン病問題授業実践アーカイブを公開した。指導案は今後も収集を継続する計画である。

Ⅱ 展示機能

1. 常設展示

1) 常設展示

プロムナード展示・導入展示、展示室1「歴史展示」、展示室2「癩療養所」、展示室3「生き抜いた証」、4つのエリアで構成し、約950点の資料を展示している。



■展示室1「歴史展示」

【趣旨・内容】日本における古代から現代までのハンセン病の歴史を、近代以降の隔離政策を中心に概観する。常設展示の中心である展示室2「癩療養所」、展示室3「生き抜いた証」を見るための前提として、歴史的経緯の把握を目的とした展示と位置づけている。

【主な資料】文書、写真、地図、実物資料、模型、解説映像、小学生向け解説シート

■展示室2「癩療養所」

【趣旨・内容】化学療法開発以前の時代を中心に、療養所における苦難に満ちた生活、隔離政策のもとでの人権侵害、偏見・差別の実例を示す。療養所および所内での生活を成り立たせてきた各要素でコーナーを構成し、雑居部屋と「重監房」の1室原寸大模型も展示している。

【主な資料】生活用具・作業道具・治療器具等の実物資料、男子独身軽症者寮「山吹舎」の1室（模型）、「重監房」の1室（模型）、写真、解説映像

■展示室3「生き抜いた証」

【趣旨・内容】苦しい状況にあったからこそ自らの生きる意味を探り見いだしてきた、患者・回復者の力強い姿と、ハンセン病をとりまく諸状況を示す。具体的には、患者運動、創作活動、共に生きる手がかりとなる知識などを展示している。また、国内42人、海外22人の回復者・関係者の証言映像を視聴できるビデオブース（証言コーナー）を設けている。なお展示室2から展示室3に至る回廊には絵画作品を、展示室3の北側展望ギャラリーには陶芸作品を展示している。

【主な資料】写真、文書、文学作品、絵画、陶芸、書、手芸、スポーツ・演芸の道具、治療薬、補助具・補装具、海外のハンセン病に関する文書類、解説映像、証言映像

■プロムナード展示・導入展示

設立準備（1990年）から開館20周年（2013年）までの当館の足跡、館の目的・理念・機能、基本情報（面積、運営費等）を展示している。

2）常設展示の更新

展示室3の80点の情報更新ならびに誤記修正を行った。また展示室1ならびに3における機材メンテナンスも行った。

3）展示解説の実施

- ・新型コロナウイルス感染防止対策の一環で、個人来館者向けのサービスの一環である学芸員による常設展示の解説は休止した。
- ・10名以上の団体を対象としたオンライン展示解説は行っているが、個人向けの展示解説については、今後の検討事項である。
- ・現時点では個人来館者に向けた展示解説を行っていないことから、学芸員による解説なしでも展示の理解を深めることができるよう、展示室1・2・3の解説シート（日・英）を展示室1入口に設置、配布している。また、展示室2・3については、解説シートに基づいた解説ビデオ（日・英字幕）の視聴が可能である。

2. 企画展示・特別展示

1) ハンセン病資料館の自主企画による企画展示

・企画展

「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」

らい予防法闘争のさなかに刊行された『いのちの芽』は、全国8療養所から73人が参加した、初めての合同詩集である。隔離政策の不条理に直面しながらも外部社会に向けて、希望・連帯・再生を希求する文学の姿を展示した。

【会 期】 2023年2月4日～2023年5月7日

・特別展、ギャラリー展

写真展「いのちの森に暮らす」

国立療養所多磨全生園の自然と人の写真、当館所蔵の第一区府県立全生病院時代の写真を合わせて展示した。

【会 期】 2022年6月10日～6月30日

【主 催】 国立ハンセン病資料館・東村山市

2) 施設貸出による展示

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、本年度は施設の貸出は行わなかったため、施設貸出による展示の開催はなかった。

Ⅲ 収集・保存機能

1. 資料の収集

支援者、入所者遺族等より以下を受贈。

写真 1 点、作品（書） 1 点、作品（絵画） 12 点、文書 2 点、実物資料 4 点、書籍 3 点、医療器具 1 点、DVD 1 点、文書・論文・書籍等約 1,500 点。

また、支援団体関係者や故・入所者関係者と、作品を含めた資料寄贈につき協議を進めた。

入所者（1 人）の証言を撮影、療養所元職員（1 人）、入所者（1 人）、義肢装具士（1 人）から聞き取り、退所者（1 人）、入所者・退所者遺族（13 人）と聞き取りについて協議を行った他、3 園社会交流会館の学芸員と入所者聞き取りにつき協議を行った。

2. 収蔵資料の保存・管理

1) 分類・整理

収蔵資料については、(1)実物資料、(2)文書、(3)作品、(4)写真、(5)映像・動画に大別し、資料整理を進めた。また、中期的な資料活用促進を視野に、新データベースを導入した。

【実物資料】本年度末時点で 5,610 件が登録。実物資料の登録はほぼ完了。

【文書資料】本年度末時点で 6,516 件が登録。資料整理を進める中で、多数の文書資料が見つかったため、来年度以降も文書資料の整理は継続。

【作品資料】本年度末時点で 2,655 件が登録。作品資料の登録はほぼ完了。

【写真資料】本年度末時点で 56,683 点が登録。資料整理を進める中で、多数の写真資料が見つかったため、来年度以降も写真資料の整理は継続。

【音声・動画資料】本年度末時点で 6,059 件が登録。音声・動画資料お登録はほぼ完了した。また、本年度は登録資料のうち 527 点のデジタル化を行った。

登録資料の中には、来歴を含む情報が欠落しているものがあることから、資料活用を念頭に、その取扱いにつき検討をする必要がある。

2) 保存・管理

常設展ならびに企画展展示資料 4 点を修復した。

館内の保存管理環境を向上するため、文化財活用センターに協力を求め、アドバイスに基づき対策を講じた。

3) 館内環境の保全

保存環境の把握と改善のために、館内各所の定期点検・清掃・温湿度計測やサーキュレーターや除湿器等の配置、空調の調整などによる維持管理、虫菌害の発生の確認と対応を行った。加えて、資料の燻蒸、雨水桝等の清掃などを行った。

4) その他

収蔵庫増築に関する諸機関との調整を行った。

資料の画像データ提供全68件、資料貸出全8件、資料撮影全3件の対応を行った。

Ⅳ 調査研究機能

1. 収蔵資料に関する調査

収蔵資料についてハンセン病回復者、関係者からのヒアリングを行うなど、資料情報の詳細な把握に努め、常設展示・企画展示や資料カードの作成等に反映した。

2. 企画展・催事開催のための調査研究

- ・2022年度企画展「生活のデザイン」の開催にともない入所者や関係者等の聞き取りを含む調査研究を行った。
- ・2022年企画展「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」に関する調査研究を行った。
- ・2022年度ギャラリー展 写真展「いのちの森に暮らす」に関する調査研究を行った。

3. ハンセン病問題・博物館に関する調査研究

1) 中・長期にわたる継続的資料調査・研究活動

- ・語り部機能継承に関する勉強会：勉強会メンバー勤務の各館の語り部機能に関する状況の報告会を開催した。非当事者による語り部機能において多くの先進的な取り組みが見られる沖縄で、メンバーのうち7人が参加し、9施設・団体の取り組みを学び、今後について協議、研修後に振り返りを行った。
- ・第10号国立ハンセン病資料館研究紀要の発行に向けて、各学芸員が必要な調査研究を行った。
- ・ミュージアムトークに向けた調査研究を行った。

2) 学会、シンポジウム、講演会等への参加

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、中止とした。

3) 調査研究の公開

- ・第10号国立ハンセン病資料館研究紀要を発行した（2023年3月31日）。
- ・掲載論文他は以下の通り。

タ イ ト ル	執 筆 者
「選ばれた島」の英訳本「MISSION TO OKINAWA」をめぐって	辻 央
道具を使う身体-「地面の底がぬけたんです」にみるハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具の意義-	吉國 元

- ・学芸員の調査研究の成果を発信する場として、「ミュージアムトーク」を開催した。

日 程	タ イ ト ル	報 告 者
2022年6月17日	トークセッション「生活のデザイン」をめぐって	西浦 直子 吉國 元
2022年8月27日	長島愛生園をめぐる多面的な聞き取り調査	木下 浩
2022年11月19日	松丘保養園のあゆみ	澤田 大介
2023年3月3日	ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」をめぐって	木村 哲也

V 情報センター機能

1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用

当資料館公式ホームページは、昨年度全面リニューアルを行ったが、来館者にとってさらに見やすく使いやすい公式サイトとなるよう、細かな更新・修正を行った。具体的には、アクセス数の多い開館カレンダーを、トップ画面の上部アイコンより、ワンクリックで閲覧可能となるよう修正を施した。

多言語対応（日本語の他、英語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、アラビア語による表示）は継続とし、海外への情報発信の継続・拡充へとつなげた。

日中から夕方にかけてホームページの動きが重くなる現象への対応として、本年度サーバ会社を変更し別会社のサーバへ移設し対策を行った。これにより、常時安定的な速さでホームページの閲覧が可能になった。また定期的な保守点検、データ更新を行った。

加えて、企画展、ギャラリー展、講演等各種イベントの開催案内ならびに開催報告の掲載を行った。またオンラインコンテンツを拡充させた。具体的には、企画展のギャラリートーク、ミュージアムトーク、講演イベント等の開催アーカイブ動画へのリンクを掲載し、時間・場所にとらわれずご覧いただける環境を整え、広報活動を積極的に実施した。

その他、データ管理の保全を目的としたバックアップ業務、ホームページの視聴者調査を引き続き実施し、情報発信力強化に向けて取り組みを行った。

当資料館ホームページ <https://www.nhdm.jp/>

2. 情報提供・検索システム関連業務

ハンセン病新聞雑誌記事目次検索における本年度分データの追加、本年度発行した研究紀要や資料館だよりなどの刊行物PDFデータの追加、ハンセン病問題授業実践（指導案）アーカイブに関するデータの追加を行った。

3. 図書室の管理・運営

ハンセン病問題関連書籍97点を新規購入、694点を受贈した他、新聞雑誌記事データの更新や追加、令和3年発行の療養所機関誌のデータ化ならびに原本の合冊製本・コピー製本、未整理資料をリスト化した。また、所蔵資料の請求番号の見直し、図書管理システムの機能追加や不具合修正を行い、図書機能の充実を図った。

また、国立国会図書館運営の「レファレンス協同データベース事業」への参加、本年度開催の企画展に合わせた図書室内でのミニ展示の開催など、新規の取り組みを行った。

本年度は入室合計者2,753人、レファレンス合計：237件、通常貸出し合計：757件、郵送貸出し合計：89件、複写申請合計：706件となった。新型コロナウイルスによる入館・入室制限が緩和されたことにより、前年度より入室合計者（744人増）もレファレンス対応（9件増）も大幅に増加している。

4. 印刷物の発行・配布

■ 2022年度月別図書室利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
入室者数	130	138	198	241	378	185	219
登録者数	7	10	13	7	2	13	9
通常貸出数	40	51	61	28	32	50	110
リモート貸出数	12	9	3	8	7	6	2
書庫出納	1	0	0	3	1	0	0
複写申請	7	23	35	77	47	30	51
図書システム登録資料数	45	31	43	29	10	96	73
新規購入資料数	3	0	13	0	0	13	14

	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入室者数	152	151	183	402	376	2,753
登録者数	4	4	6	8	5	88
通常貸出数	64	46	91	92	92	757
リモート貸出数	5	2	14	7	14	89
書庫出納	1	1	13	5	1	26
複写申請	84	34	81	69	168	706
図書システム登録資料数	106	144	179	152	61	969
新規購入資料数	11	17	9	8	9	97

下記の印刷物を発行し、来館者および関係機関等に配布した。

1) 『資料館だより』（季刊）

- ・資料館だより第115号（A4判 16,000部、両面カラー、2022年4月1日発行）
- ・資料館だより第116号（A4判 16,000部、両面カラー、2022年7月1日発行）
- ・資料館だより第117号（A4判 18,000部、両面カラー、2022年10月1日発行）
- ・資料館だより第118号（A4判 18,000部、両面カラー、2023年1月1日発行）

2) 来館者用配布資料等

- ・常設展示解説シート『はじめてのみなさんへ』改訂増刷（B5タテ 合計16,000部、両面カラー、2022年4、7、9、11月発行）

3) 展示図録

- ・企画展「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」発行（B5タテ、48ページ、フルカラー、2,000部、2022年3月発行）
- ・2017年度秋季企画展図録「隔離のなかの食 一生生きるために 悦びのために」改訂増刷（A4タテ⇒B5タテ、64ページ、1,000部 2022年6月発行）
- ・2019年度春季企画展図録「キャンパスに集う～菊池恵楓園・金陽会絵画展」改訂増刷（A4タテ判⇒B5タテ、48ページ、1,000部 2022年6月発行）
- ・企画展図録「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」

改訂増刷（B5タテ、52ページ、1,000部、2022年7月発行）

- ・ 同上改訂2刷（2,000部、2022年9月発行）
- ・ 「国立ハンセン病資料館常設展示図録2020」増刷（A4タテ、128ページ、カラー、1000部、2022年10月発行）

4）研究紀要

- ・ 『国立ハンセン病資料館 研究紀要 第10号』を発行した。
（A4タテ、本文61ページ、表紙2色・本文1色、900部、2023年3月31日発行）

5）年報

- ・ 『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 2021年度 年報』を発行した。
（A4タテ、67ページ、当館ホームページにて公開、2022年12月1日発行）

VI 管理・サービス機能

1. 施設管理・運営

1) 施設整備

当資料館施設等の機能と環境を良好に維持し、サービス提供が常に円滑に行われるよう、施設等の日常点検ならびに保守および法定点検、環境測定等の保守管理業務を行った。また、館内の日常清掃、窓ガラス清掃・床ワックス等特別清掃の他、害虫防除業務等を実施し、適切に施設管理を行った。

2) 設備更新

設備の経年劣化に対処するため適宜更新作業を実施した。令和4年度は、常設展示室内の展示用固定ケースの修繕、ならびに常設展示室内プラズマディスプレイやプロジェクター機器を更新した。また、書庫・図書室空調設備における配管腐食部分の除去と防錆処理工事の実施、雨漏りが起きたエントランス上部のサッシシーリング更新工事や、収蔵庫空調設備の修繕工事、常設展示室空調整備の修繕工事、地下ピット湧水ポンプ更新工事、救護室ならびにサーバ室のエアコン更新工事などを実施した。

3) 情報機器定期保守

システム関係機器に関しては、保守点検を定期的の実施し円滑な運用を図った。加えて、経年劣化、保守期間終了等更新が必要な機器類については適宜リプレイスを実施した。当資料館公式ホームページのサーバについては、よりスペックの高いサーバへ変更し、セキュリティを高くし、かつ安定的な運用を図った。また新規に採用した職員に対し、パソコン等の機器の手配を行った。

4) 事業費管理

国立ハンセン病資料館の事業費管理を行った。2022年度運営費は460,164,665円。

2. アンケートの実施

来館者の意見を収集し今後の活動に資するため、企画展、ミュージアムトーク、ハンセン病と人権セミナーなどでアンケートを実施した。

3. 施設貸出

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、中止とした。

4. その他

新型コロナウイルスの感染拡大により事前予約制・定員制としていた開館を、まん延防止等重点措置が解除された2022年3月23日より、通常開館へ戻す運用を再開した。ただし、団体プログラムについては、感染防止の観点から、30名を上限として団体向け来館プログラムを再開した。その後、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、2022年7月1日から団体見学における来館者上限人数を30名から70名へ、感染防止対策を施した上で、緩和した。

対面プログラムの制限下における団体見学利用者への対応として、オンラインによる団体向け展示解説を積極的に展開した。加えて、個人見学利用者への対応として、オンラインによるミュージアムトーク、オンラインによる各種講演会の開催など、オンライン事業を強化した。また小中学校等への出張講座においては、積極的な周知・営業活動を行い、新規小中学校等の開拓に注力した。

オンラインと対面の双方を活用したサービスを展開することで、コロナ禍で来館が難しい個人・団体のみならず、地理的な理由を含めこれまで来館が困難だった方々にも、オンライン化によりハンセン病資料館の各種サービスが利用可能となった。オンラインプログラムの充実に伴い、資料館の活動が外からも見えるようになった、資料館の活動が活発化している等の意見も頂いている。

また、お客様からのご要望としてこれまで多くの声が寄せられていた飲料水購入のための自動販売機を1台、当資料館敷地内に設置した。

このように、当資料館の円滑な運営を図るとともに、利用者の満足度が高められるよう、来館者の側に立ったサービスを心がけ適切に施設運営を行った。

VII 企画調整機能

1. 広報活動

1) 資料館だよりの発行

「V 情報センター機能 4. 印刷物の発行・配布」を参照。

2) ホームページの管理・運営

「V 情報センター機能 1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用」を参照。

3) その他の広報

事業の紹介、各種イベントの案内等周知を図るため印刷物の発行および各報道機関へのプレスリリースの配信、ならびに近隣交通機関とその一部駅舎に看板設置を行い、さらにFacebook・Twitter等SNSを積極的に活用し、利用者への周知を図った。

■ 報道

新聞・雑誌等151件において当資料館ならびにイベント等の紹介に関する報道がなされた。

■ 広報（広告、その他）

- ・西武池袋線清瀬駅、練馬駅に額面看板を掲出した。（継続）
- ・JR池袋駅に額面看板を掲出した。（新規）
- ・JR武蔵野線新秋津駅に額面看板を掲出した。（継続）
- ・西武バス清瀬駅の時刻表部分に当資料館広報用看板を掲出した。（継続）
- ・西武池袋線車両50両、ならびに西武新宿線車両90両に、車内窓上ポスターを掲出した。（継続）
- ・企画展、ギャラリー展等イベントの開催案内周知を目的に、プレスリリースを添付し、報道関係者にメールの一斉送信を行った。
- ・オンライン企画（ミュージアムトーク、ギャラリートーク、講演会等）のアーカイブ動画を当資料館公式YouTubeに掲載した。
- ・お知らせメールの配信を継続して行った。

2. 博物館施設、関係諸機関との連携

他の博物館施設や専門図書館との交流促進のため、以下の組織に加盟している。また、三多摩公立博物館協議会機関誌編集委員会の役員として「ミュージアム多摩第44号」原稿のとりまとめ作業を行った。

- ・日本博物館協会
- ・東京都博物館協議会
- ・三多摩公立博物館協議会
- ・医学図書館協会
- ・日本患者図書館協会

VIII 2022 年度利用状況

1) 開館日数

2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）の開館日数は、272日であった。

2) 入館者数

2022年度の各月入館者数、および各月の開館日に対する1日あたり平均入館者数は以下の通りであった。

	入館者数（人）	開館日（日）	1日平均（人）
4月	1,068	26	41.08
5月	995	25	39.80
6月	1,679	26	64.58
7月	1,689	27	62.56
8月	3,065	25	122.60
9月	1,080	26	41.54
10月	1,455	26	55.96
11月	1,274	24	53.08
12月	916	23	39.83
1月	661	24	27.54
2月	1,885	23	81.96
3月	1,838	26	70.69
合 計	17,605	301	58.49

※1日平均入館者数は小数点3位で四捨五入

※入館者数17,605名のうち、個人:13,933名、団体:3,672名（144団体）

第2部 重監房資料館
2022年度

第1章 重監房資料館の概要

I 目的・理念・機能

【目的】

特別病室（重監房）の収監に関しては、その運用や手続きなど未だに不明な点が多くある。重監房資料館は、こうした特別病室（重監房）とハンセン病問題に関する資料の収集・保存と調査・研究の成果を発表することにより、人の命の大切さを学び、広くハンセン病問題への理解を促すことで、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す。

【理念】

重監房資料館は、特別病室（重監房）を負の遺産として後世に伝え、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す普及啓発の拠点として、人権尊重の精神を育む。

【求められる資料館像】

- ① 特別病室（重監房）及びハンセン病・ハンセン病問題に関する調査研究を行うとともに情報や知識を普及啓発する拠点施設。
- ② 特別病室（重監房）での過酷な歴史や悲惨な出来事を、想像力をはたらかせながら体感することができ、その苛酷さ・悲惨さが伝わる施設。
- ③ 年間を通じて開館し、将来にわたって活動を継続できる施設。
- ④ 特別病室（重監房）及びハンセン病・ハンセン病問題に関する資料を収集・展示・保存できる施設。
- ⑤ 誰もが見学できる施設。
- ⑥ 地域の方々がかわり、世代を超えて支えられる施設。

【機能】

■ 歴史継承機能

資料の散逸を防ぎ、歴史とともに後世に伝えるため、特別病室（重監房）及びハンセン病・ハンセン病問題に関する調査研究を行うとともに、資料を収集・保存する。

■ 普及啓発機能

調査研究の成果を一般に提供し、人権学習の支援を行う。

■ 再現・展示機能

〔重監房原寸部分再現〕

原寸部分再現により、特別病室（重監房）の過酷さや悲惨さを感じられるようにする。

〔展示〕

特別病室（重監房）の全体像を示す縮小模型や証言映像、調査研究の成果などを公開する。

■ 情報発信機能

特別病室（重監房）及びハンセン病・ハンセン病問題に関する情報の受発信と集積を行い、特別病室（重監房）や重監房資料館について広く知らせる。

■ 管理機能

円滑な施設運営を行うとともに、来館者の利便を図る。

Ⅱ 運営委員会

1) 目的

重監房資料館の運営方針、事業計画、学術事項等に関する議論、検討を行い、円滑な実施を図るために協議を行う。委員の委嘱は、資料館長が行う。事務局は、笹川保健財団が担当する。

2) 2022年度委員会について

2022年度運営委員会は、前年度に続き、新型コロナウイルス等の影響により委員会の開催はできなかったが、下記の通り委員の委嘱を行った。

2022年度委員（敬称略）

委員長	黒岩 信忠（栗生楽泉園とまちの明日を創る会会長、草津町長）
委員長代理	中澤 一夫（草津町愛町部福祉課長）
	鮎京真知子（弁護士、ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国弁護団連絡会）
	笠井 智（栗生楽泉園入所者自治会会長）
	金丸 勝利（草津町議会 民教土木常任委員会委員長）
	黒尾 和久（重監房資料館部長）
	杉原 信二（弁護士、群馬弁護士会会員）
	中村多美子（群馬県健康福祉部 感染症・がん疾病対策課 課長）
	中村 紀雄（元群馬県県会議員）
	羽部 光男（栗生楽泉園とまちの明日を創る会構成員）
	松岡 正典（元WHOハンセン病テクニカルアドバイザー）
	水落一二三（栗生楽泉園入所者自治会副会長）
	宮坂 道夫（新潟大学医学部教授）
	吉幸かおる（群馬・ハンセン病問題の真の解決をめざし、ともに生きる会 顧問）
オブザーバー	岩倉 慎（厚生労働省健康局難病対策課課長補佐）
	信澤 武（栗生楽泉園福祉室長）

Ⅲ 重監房資料館管理運営規程

（目的）

第1条 この規程は、重監房資料館（以下「資料館」という。）の管理運営を円滑に行うために必要な事項を定める。

（事業）

第2条 資料館は、ハンセン病問題の解決の促進に関する法律（平成20年法律第82号）第18条に基づき国が実施する普及啓発活動の一環として、特別病室（重監房）を負の遺産として後世に伝え、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す普及啓発の拠点として、人権尊重の精神を育むため、次に掲げる事業を行う。

（1）歴史継承事業

特別病室（重監房）とハンセン病問題に関する資料の収集・保存や調査研究活動を通じて貴重な資料の散逸を防止することで後世に伝承すべき歴史資産を適切に管理するとともに、知見の蓄積に基づく研究成果を発表することで資料館の存在意義を広く認知させる活動を行う。

（2）普及啓発事業

資料の収集・保存や調査研究活動等によって得られた成果を、普及・啓発を通じて一般に示し、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す。

（3）再現・展示事業

資料の収集・保存や調査研究活動等によって得られた成果のうち公開可能な物を展示することにより、特別病室（重監房）とハンセン病問題に関する理解促進とハンセン病をめぐる差別と偏見の解消に寄与する。

（4）情報発信事業

資料館の事業を広く一般に周知するとともに、活動内容を公開することでハンセン病をめぐる差別と偏見の解消に寄与する。

（5）管理機能事業

資料館を円滑に運営し、利用者の利便性に配慮した活動を実施する。

（年間事業計画）

第3条 重監房資料館長（以下「館長」という。）は、毎年、翌年度の年間事業計画を作成し、厚生労働省に提出するものとする。

2 年間事業計画には、当該年度の事業計画の大綱、重点施策、テーマに基づく調査研究、企画展・特別展、資料の収集及び保存、普及啓発活動の具体案等を明記する。なお、軽微な場合を除き、年間事業計画を変更しようとするときは、厚生労働省に変更計画を提出するものとする。

（休館日及び開館時間）

第4条 資料館の休館日及び開館時間は、次のとおりとする。ただし、厚生労働省と協議して、休館日又は開館時間を変更することができる。

（1）休館日

毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日

(2) 開館時間

フルオープン期間（4/26～11/14）：午前9時30分から午後4時まで（入館は午後3時30分まで）

冬期予約期間（11/15～4/25）：午前10時00分から午後3時30分まで（入館は午後3時まで）

(3) 臨時休館日

その他不測の事態及び資料館の維持管理上必要やむを得ない場合があるときは、臨時に休館日とすることができる。

（入館料）

第5条 資料館の入館料は無料とする。

（入館の制限）

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

- (1) 資料、建物若しくはその附属設備をき損し、他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になる物品若しくは動物の類（盲導犬・聴導犬等を除く。）を携帯する者
- (2) 公の秩序又は公共の風俗を乱すおそれのある者
- (3) その他職員の指示に従わない者および資料館の管理運営上支障があると認められる者

（入館者への指導）

第7条 職員は、入館者に対して次に掲げる事項を守るよう指導しなければならない。入館者がこの指導に従わないときは、退館させることができる。

- (1) 資料等をき損又は汚損するおそれのある行為をしないこと。
- (2) 備え付けの備品を勝手に移動させないこと。
- (3) 所定の場所以外で飲食又は喫煙をしないこと。
- (4) 大声を発すること、暴力を用いることその他の他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (5) 物品（文書及び図面等を含む。）の販売又は提供をしないこと。
- (6) 勧誘、寄付募集その他これに類する行為をしないこと。
- (7) 座込みその他通行の妨害になるような行為をしないこと。
- (8) 立入りを禁止した場所に立ち入らないこと。
- (9) 前各号に掲げるもののほか、資料館の運営の妨げになる行為をしないこと。

（損害賠償）

第8条 館長は、資料館の資料又は建物若しくはその附属設備等をき損、汚損又は滅失した者が判明したときは、その者に対し相当と認める損害の賠償を求めなければならない。

（資料等の亡失・損傷）

第9条 館長は、資料・備品に亡失・損傷その他の事故があったときには、その品名、数量、原因その他必要な事項を速やかに厚生労働省に報告する。

(入館者の損害事故等)

第10条 職員は、入館者が館内において傷害を負った場合は、直ちに応急措置を施すとともに、傷害の状況、負傷者の住所、氏名、連絡先等を事務局長に報告する。

2 事務局長は、当面の対策を指示するとともに、事後の措置に万全を期さなければならない。

3 前2項の規程は、入館者が病気等のために休憩場所の提供の申し出があった場合について準用する。

(土地、建物および設備等の管理)

第11条 土地、建物及び設備等の管理責任者は、館長とする。

2 館長は、土地、建物及び設備等が滅失、損傷した場合は、速やかに厚生労働省に報告し、指示を受ける。

(施設の使用)

第12条 館の管理する土地、建物、設備等の施設は、館長が業務運営上必要であると認めるときは、第三者に使用させることができる。

(使用者の責任)

第13条 第8条の規程は、施設の使用者が資料館の施設、設備、資料等に損害を与えた場合について準用する。

(資料の寄贈及び寄託)

第14条 第2条各号に掲げる事業に係る資料（以下「資料」という。）の寄贈を受け入れたときは、寄贈資料受入整理簿に必要な事項を記載し、寄贈者に資料受領書を速やかに交付する。

2 資料の寄託は、あらかじめ寄託者と期間を取り決めた上で「寄託資料受入整理簿」に必要事項を記載し、寄託者に資料受領書を速やかに交付する。また、寄託者が期間前に資料の返還を受けようとするときは、寄託物返還申込書を提出する。

(資料の管理)

第15条 展示資料・収蔵資料等については、常に温湿度等の管理に注意し、異常が生じた場合は、速やかに対応するものとする。

(館長への委任)

第16条 この規程の定めるもののほか、資料館の管理運営に関し必要な事項は、館長が定める。

附 則

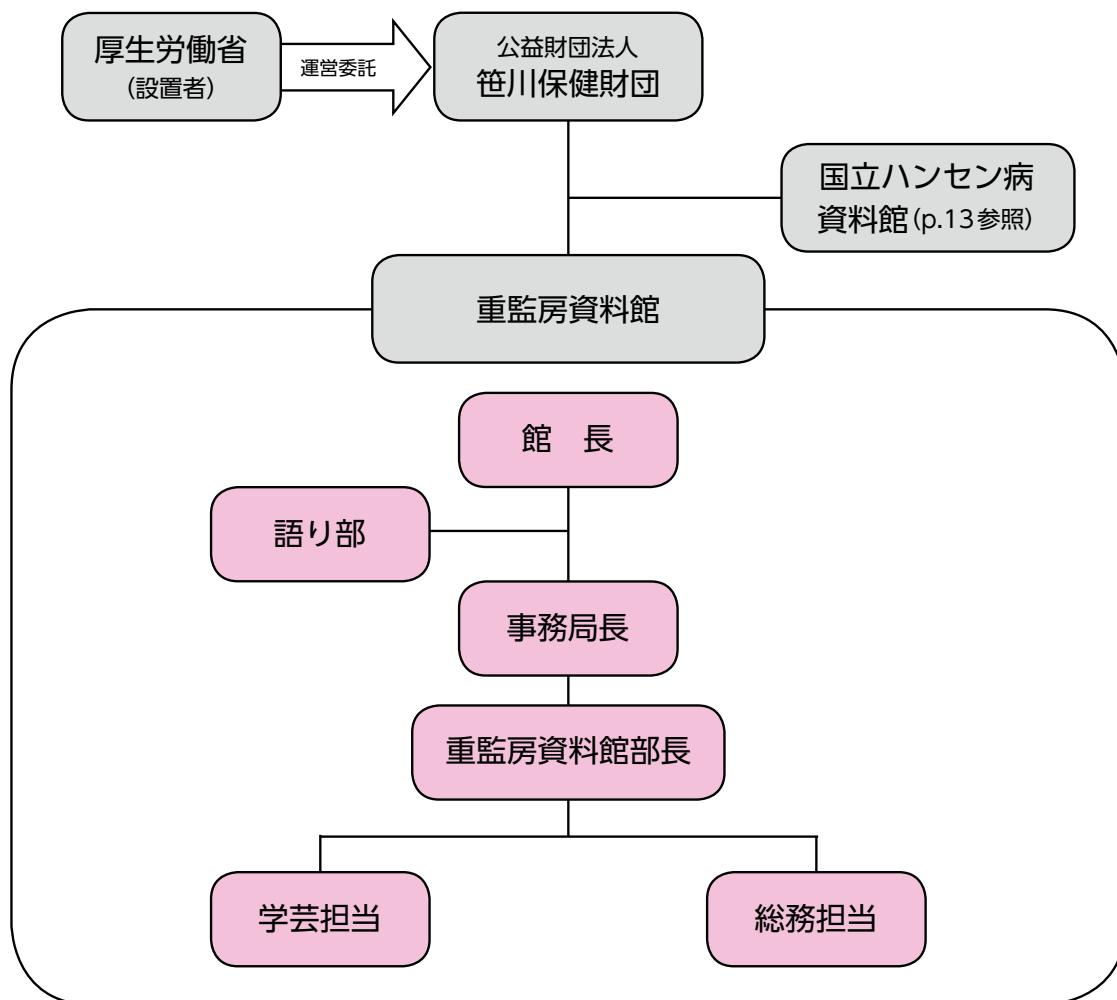
この規程は、2014年4月30日から施行する。

この規程は、2016年7月1日から施行する。

この規程は、2019年12月13日から施行する。

IV 組織

■組織図



- ・学芸担当は、歴史継承機能業務、普及啓発機能業務の一部、再現・展示機能業務、情報発信機能業務の一部を担当。
- ・総務担当は、普及啓発機能業務の一部、情報発信機能業務の一部、管理機能業務を担当。

■職員名簿 2023年3月31日現在

- ・館長 内田 博文 (国立ハンセン病資料館長兼務)
- ・事務局長 飯塚 賢治 (国立ハンセン病資料館事務局長兼務)
- ・重監房資料館部長 黒尾 和久 (学芸員)
- ・総務課長 香川 進司
- ・学芸担当 学芸員 鎌田 麻希
- 学芸員 松浦 志保

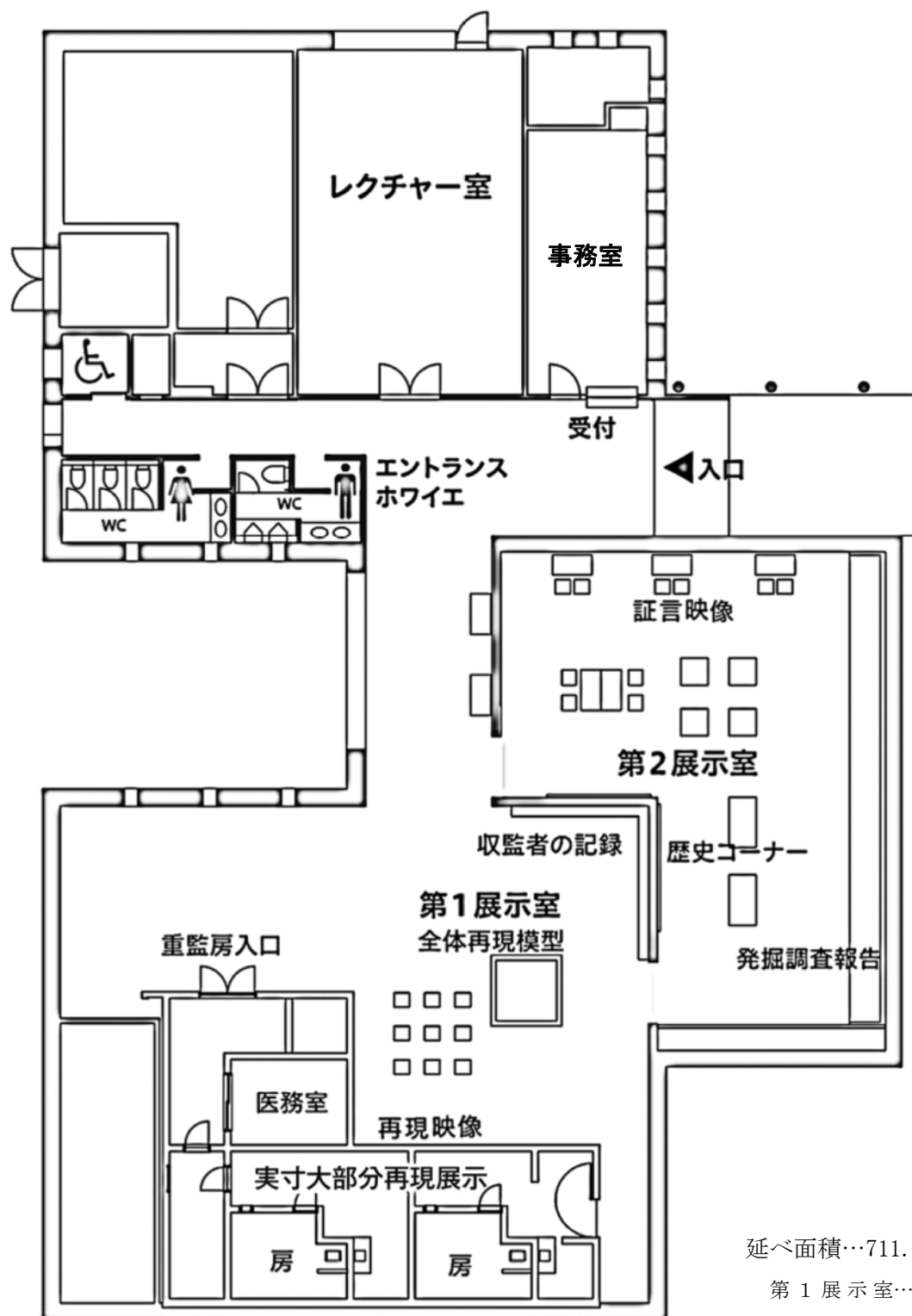
V 沿革・これまでの主な事業

2004年	栗生楽泉園・重監房の復元を求める会が、特別病室（通称重監房、以下「重監房」と表記）跡地の保存と復元を求める107,101人分の署名を国（厚生労働省）に提出（6月）。
2008年	2007年度ハンセン病問題対策協議会において、歴史的建物・資料の保存・復元等については、重監房を優先課題として取り上げることになる（3月）。 第169回通常国会において「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」が可決・成立、公布される。この法律によって国立のハンセン病資料館の設置や歴史的建造物の保存に法的根拠が与えられた（6月18日公布、翌年4月1日施行）。 2008年度ハンセン病問題対策協議会において重監房復元、重監房跡地の保存については、国の責任で行うことになる（12月）。
2011年	2010年度ハンセン病問題対策協議会において国（厚生労働省）は重監房再現・展示施設の建築に必要な予算獲得に努めることになる（3月）。
2012年	重監房再現・展示施設の実施設設計経費を盛り込んだ政府の2012年度予算が成立（4月）。 ハンセン病資料館等運営企画検討会・歴史的建造物等保存作業部会の重監房再現ワーキンググループが、「重監房再現に関する基本計画書」をとりまとめる（5月）。
2013年	重監房資料館の施設整備費及び展示制作費を盛り込んだ、政府の2013年度予算が成立（4月）。 厚生労働省が「重監房資料館整備工事」の入札公告を公表（5月）。神宮工業が落札。 「重監房資料館整備工事」着工（6月）。 厚生労働省が「重監房資料館展示制作」の入札公告を公示（7月）。丹青社が落札。 国立ハンセン病資料館の協力のもと、厚生労働省が重監房跡地の発掘調査を実施（8月～9月）。出土遺物は、東京都埋蔵文化財センターに保存処理を依頼。 2013年度ハンセン病問題対策協議会において重監房資料館と跡地の維持・管理、人的体制の整備は国の責任で行うことを確認（10月）。 国立ハンセン病資料館内に重監房資料館開設準備室を設置。学芸員と事務員各1名が配置される（12月）。 展示、ホームページ、パンフレット、チラシ等の企画・作成を行う（12月～翌年4月）。
2014年	厚生労働省が重監房資料館の管理運営を盛り込んだ「ハンセン病対策事業（資料館運営等委託分）」の企画競争を公表（1月28日公示）。 厚生労働省の主催により、前橋市の群馬県民会館でシンポジウム「重監房とは何だったのかハンセン病隔離政策の“負の遺産”を考える」を開催（3月）。 公益財団法人日本科学技術振興財団が重監房資料館の管理運営事業受託者となる。開設準備室を草津町の建設地内仮事務所に移動。学芸員及び事務員が草津に着任（4月）。 「重監房資料館整備工事」竣工（4月）。 厚生労働省から管理運営事業受託者に重監房資料館の建物が貸与され、展示資料の搬入を行う（4月）。 重監房資料館開館記念式典を挙行。グランドオープン。ホームページを公開（4月）。 重監房跡地に見学者用の手すりとウッドデッキを整備する工事を行う（10月～翌年3月）。 厚生労働省により、重監房の遺構基礎構造の調査が行われる（11月～翌年3月）。
2015年	東京で開催された「グローバル・アピール2015」を記念したイベント、「現在・過去・未来…当事者の想い」（パネルディスカッション、子どもたちの空手演武、コンサート）を開催（1月）。 重監房跡地の見学デッキの一般公開を開始（4月）。 来館者1万人達成セレモニー開催（6月）。 重監房跡地の展望台の一般公開を開始（7月）。 「語り部の日」実施（7月～11月）。

2015年	企画展「沢田五郎特別展」開催（10月～11月）。
2016年	重監房資料館の管理運営事業受託者が公益財団法人日本財団に変更となる（4月）。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣（6月）。
	第89回日本ハンセン病総会・学術大会（草津）開催事務局として支援（6月）。
	休館日を週2日から、週1日に変更（7月）。
	戦後米軍の撮影した空中写真中に重監房を発見（7月）。
2017年	「語り部の日」実施（7月～11月）。
	企画展「人間劬雄二」開催（10月～11月）。
	ドキュメンタリー映像「熊笹の尾根の生涯 ー人間劬雄二・ハンセン病とともに生きるー」制作（10月～11月）。
	重監房新画像発見（5月）。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣（6月）。
	栗生楽泉園監禁室鍵発見（7月）。
	企画展「それは百年前に始まった」開催（7月～8月）。
2018年	門衛跡地発掘調査（10月～11月）。
	門衛跡地発掘調査、報道関係者内覧会（11月）。
	「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」（重監房を含む）大型写真パネルの制作、関係者内覧会（2月）。
	「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」（重監房を含む）展示公開（4月）。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣（6月）。
	企画展「隔離のなかの隔離 ーハンセン病療養所監禁室の内部ー」開催（7月～8月）。
	門衛柱屋外展示除幕式開催（7月）。
	来館者3万人達成セレモニー開催（7月）。
	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー実施（8月）。
2019年	シャトルタクシー（草津温泉バスターミナル駅～栗生楽泉園～重監房資料館を無料送迎）実施（8月）。
	調査報告書「門衛所跡の発掘調査」発行（3月）。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣（6月）。
	企画展「旧日本統治下海外ハンセン病療養所監禁室展」開催（7月～8月）。
	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー実施（7月～8月）。
2020年	シャトルタクシー（草津温泉バスターミナル駅～栗生楽泉園～重監房資料館を無料送迎）実施（7月～8月）。
	ハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり ーハンセン病差別と向き合うー」制作（9月）。
	ハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり ーハンセン病差別と向き合うー」上映会開催（1月～2月）。
2021年	企画展「重監房跡を掘る☆撮る～黒崎彰写真展～」開催（7月～12月。1月～3月開催延長）。
	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー実施（7月～8月）。
	シャトルタクシー（草津温泉バスターミナル駅～栗生楽泉園～重監房資料館を無料送迎）実施（7月～8月）。
	全館燻蒸を実施（9月）。
	レクチャー室に「劬文庫」設置（3月）。
2021年	企画展「重監房を報道した男 関喜平展」開催（7月～9月。9月～12月開催延長）。

2021年	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー実施（7月～9月）。
	企画展「重監房を報道した男 関喜平展」トークイベント開催（9月）。
	ハンセン病人権啓発映像「続・遺族ふたり（仙太郎大叔父編）」（仮称）撮影原版制作（11月）。
	瀬木悦夫復刻シリーズ1『実話小説 特別病室』を復刻（3月）。
2022年	企画展「希望絶たれても ^{のぞみ} なお ～重監房収監者の人生～」開催（7月～11月）。
	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー実施（7月～9月）。
	企画展「希望絶たれても ^{のぞみ} なお ～重監房収監者の人生～」ギャラリートーク開催（8月～9月）。
	企画展「希望絶たれても ^{のぞみ} なお ～重監房収監者の人生～」オンライン配信による企画展展示解説実施（11月）。
	ハンセン病人権啓発映像「続・遺族ふたり（仙太郎大伯父編増補版・無癪県運動の真実）」制作（11月）。
	瀬木悦夫復刻シリーズ2『われとわが身を』を復刻（11月）。

VI 施設概要



延べ面積…711.15㎡

第1展示室…240㎡

第2展示室…139.5㎡

レクチャー室…71.4㎡

収蔵庫…50.32㎡

第2章 2022年度事業

I 歴史継承機能

2022年度も、新型コロナウイルス感染防止のため、外出、出張等の外部での活動は可能な限り回避するようにしたため、各種調査・研究活動は極力自粛したが、その中でも、新しい資料の受け入れ、燻蒸、資料の保存環境設備の見直し等、いくつかの進展を得ることができた。

1. 資料の収集・保存

1) 書籍・古典籍等

- ・なし

2) ハンセン病政策及びハンセン病療養所に関する遺物等

- ・国立療養所栗生楽泉園入所者等から寄贈された資料を収集・保存した。

3) その他

- ・収蔵収藏品、関喜平氏遺族から受け取った遺品について、簡易燻蒸（外部倉庫における持ち出し燻蒸）を行った。（2022年7月3日～9日）
- ・収蔵庫、収蔵前室の照明のLED化対応工事を行った。（2023年3月17日）
- ・収蔵庫の棚、テンバコ、中性紙封筒等の備品、消耗品を活用した整理を行った。また、収蔵庫内の清掃・整理や、資料撮影機材、環境等の作業ツール見直しを励行し、学芸作業環境の充実、改善を行った。（通年）
- ・収蔵庫及び展示室において、温湿度の計測を行い、記録、分析中。館内の虫害状況の検証、併せて清掃を中心とする駆虫対処も行った。（通年）
- ・榎雄二氏（元ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会会長、元栗生楽泉園入所者自治会副会長）の寄贈資料の整理、リスト化作業を行った。また、寄贈図書について図書コーナー「榎文庫」の図書及び図書データの整理を行った。（2020年より継続中）

2. 屋外展示（跡地）環境の保全

1) 跡地見学環境整備

- ・雑草の駆除、枯葉の除去を実施した。（通年）

2) 跡地見学者用デッキ及び見学スペース一般公開

- ・一般公開を継続した。（2022年4月26日～11月14日）

3) 展望台一般公開

- ・一般公開を継続した。（2022年4月26日～11月14日）

3. 調査・研究

1) 特別病室（重監房）に関する調査・研究

- ・引き続き、特別病室（重監房）遺構基礎構造調査及び収監者に関するライフヒストリー調査を行った。（継続中）

2) ハンセン病政策・ハンセン病療養所史

- ・なし

3) 患者及び回復者（入所者・退所者）等の生活

- ・全国の国立ハンセン病療養所、関係箇所において聞き取り及び文献資料調査を行った。（継続中）

4) 歴史的建造物・史跡・記念物の保存対策

- ・邑久光明園監禁室の内部壁面に残る「落書」の保全処理工事に関して、文化財保全の観点からの保護、保全方法について、現地を視察、助言を行った。

（黒尾部長）（邑久光明園 2022年11月15日～17日）

- ・第11回歴史的建造物の保存等検討会に参加し、歴史的建造物（多磨全生園、長島愛生園の歴史的建造物等）に係る討議、検証に参加した。

（多磨全生園：旧図書室、築山〈望郷の丘〉、旧少年少女舎、旧山吹舎、納骨堂、土塁・堀、旧全生学園跡地

長島愛生園：十坪住宅〈梅カ香〉、邑久高校新良田教室特別教室、新良田治療分室、日出浴場、収容棧橋、監房、旧洗濯場、園長官舎、十坪住宅〈第四千代田〉

の保全について）（黒尾部長）（TKP新橋カンファレンスセンター 2022年12月23日）

- ・国立ハンセン病資料館新収蔵庫建設予定地の地中障害物の視察、調査を行った。

（黒尾部長）（国立ハンセン病資料館 2023年3月23日）

5) 企画展のための調査・研究

- ・2023年度企画展「蘇るハンセン病患者とその家族」準備、調整を行った。
- ・今後の企画展への準備、調査

2024年度企画展において、「菊池事件」と特別病室（重監房）の関連を取り上げるため、菊池恵楓園歴史資料館、菊池恵楓園自治会関係者に、とくに菊池事件について、調査協力を得、準備を開始した。

6) 調査・研究成果の発表等

- ・日本考古学協会第88回総会に、黒尾和久部長が参加をした。（於：早稲田大学、2022年5月28日～29日）
- ・第95回日本ハンセン病学会総会・学術大会に、黒尾和久部長が参加した。（於：国立ハンセン病資料館Web参加、2022年6月11日）
- ・第16回ハンセン病市民学会全国交流集会in長野に、黒尾和久部長が参加をした。（於：JA長野県ビルホールWeb参加、2022年6月12日）

7) 執筆活動

- ・『上毛新聞オピニオン21『視点』(4月8日)』(上毛新聞論説室オピニオン21事務局発行)において、「偏見差別は今も社会に」と題して、黒尾和久部長が執筆した。
- ・『上毛新聞オピニオン21『視点』(5月30日)』(上毛新聞論説室オピニオン21事務局発行)において、「名前刻み名誉の回復を」と題して、黒尾和久部長が執筆した。
- ・『上毛新聞オピニオン21『視点』(7月22日)』(上毛新聞論説室オピニオン21事務局発行)において、「絶たれた希望想像して」と題して、黒尾和久部長が執筆した。
- ・『上毛新聞オピニオン21『視点』(10月27日)』(上毛新聞論説室オピニオン21事務局発行)において、「不断の努力で人権尊重」と題して、黒尾和久部長が執筆した。

8) 論文・報告書

なし

9) その他

- ・草津周辺におけるハンセン病関連の施設、古地図等の資料調査を行った。(継続中)
- ・関喜平氏遺族から受け取った、実話小説『特別病室』の直筆原稿、『われとわが身』掲載同人誌、蔵書類について、資料整理、調査を行った。(継続中)
- ・瀬木悦夫復刻シリーズ2『われとわが身を』の復刻に向けた調査を行った。
2021年度企画展「重監房を報道した男 関喜平展」の調査過程で発見された瀬木悦夫(関喜平)の小説『われとわが身を』の復刻に向け、調査、原稿作成を行った。
- ・新型コロナウイルス等の理由により中断されていた、2014年にミュージアム知覧が行った知覧飛行場跡の発掘調査において偶然発見されたハンセン病患者の隔離家屋跡に関する患者とその遺族の調査再開の、打合せを行った。また、星塚愛生園入所者自治会にも情報交換、調査協力の要請を行った。(黒尾部長)(ミュージアム知覧、星塚敬愛園 2023年3月14日～15日)

4. その他

- ・なし

Ⅱ 普及啓発機能

2022年度も、新型コロナウイルス感染防止や、各機関側の訪問受付、会合開催自粛により、自治体、学校、観光施設、交通機関、各種団体に対する訪問、公報活動、発表は極力自粛したが、講演（Web講演を含む）、映像制作、映像貸出、イベント開催、冊子刊行の他、新たにWebを介した展示解説を公開するなど、コロナ禍の条件下でも、引き続き、可能な限りの活動の継続、発展に努めた。

1. 語り部活動

語り部活動が栗生楽泉園社会交流会館へ移管されたこと及び語り部の健康上の理由から、「語り部の日」の実施は見送られた。

2. 人権学習の支援

1) 行政機関等に対する協力

- ・東村山市教育委員会「東村山市夏季集中研修」において、黒尾和久部長が『人権教育』について～人権課題の正しい理解と認識を深める～と題した講演を行った。（主催：東村山市教育委員会、於：東村山市役所北庁舎、2022年8月2日）
- ・東村山市議会政策研究会「多磨全生園の将来構想について」において、黒尾和久部長が『いのちと心の人権の森宣言』を読み解く」と題した講演を行った。（主催：東村山市議会政策研究会、於：東村山市役所本庁舎、2022年8月12日）
- ・ハンセン病問題を知る企画実行委員会「ハンセン病問題を知る企画」において、黒尾和久部長が『いのちと心の人権の森宣言』を読む」と題した講演を行った。（主催：ハンセン病問題を知る企画実行委員会、於：東村山市立中央公民館、2022年8月13日、8月16日）
- ・宗教法人日本聖公会「2022年日本聖公会人権セミナー」において、松浦志保学芸員が「重監房とクリスチャン」と題した講義を行った。（主催：宗教法人日本聖公会、於：聖公会北関東教区研修所、2022年10月12日）
- ・東村山ふるさと歴史館「企画展『多磨全生園と学校-ハンセン病と子供たち-』付随講演会」において、黒尾和久部長が『いのちと心の人権の森宣言』を読む～ハンセン病療養所を歴史遺産とする観点から～と題した講演を行った。（主催：東村山ふるさと歴史館、於：東村山ふるさと歴史館、2022年10月29日）
- ・ハンセン病問題を学ぶ市民の会「にしのみや人権フォーラム2022～ふれあいの広場～ハンセン病問題を学ぶ市民の会講座」において、黒尾和久部長が『重監房』が私たちに伝えていること」と題した講演を行った。（主催：ハンセン病問題を学ぶ市民の会、於：西宮市中央公民館、2022年12月4日）
- ・全生園の明日をともに考える市民の会「全生園の明日をともに考える市民の会1月定例会」において、黒尾和久部長が「ハンセン病資料館ができるまで」と題した講演を行った。（主催：全生園の明日をともに考える市民の会、於：東村山市立社会福祉センター、2023年1月28日）
- ・ピースカフェちがさき「映画と講演の集い～差別・偏見のない社会をめざして～」において、黒尾和久部長が「ハンセン病問題：その歴史・人としての尊厳をとり戻す闘い」と題した講演を行った。（主催：ピースカフェちがさき、於：茅ヶ崎市勤労市民会館、2023年2月4日）

- ・一般社団法人ヒューマニタリアン・サポート シンポジウム「戦争と人権、その先にあるもの」において、黒尾和久部長が「兵士は戦場へ、癪（らい）患者は療養所へ」と題した講演およびシンポジウムパネラーを担当した。（主催：一般社団法人ヒューマニタリアン・サポート、於：愛媛県総合社会福祉会館多目的ホール、2023年2月23日）

3. 普及啓発のための映像制作活動

- ・ハンセン病人権啓発映像「続・遺族ふたり」（仙太郎大伯父編増補版・無癪県運動の真実）制作
重監房資料館の開館5周年（2019年4月30日）を記念して、ハンセン病元患者の2人の縁者の協力を元に、当館が制作したドキュメンタリー映像「遺族ふたり」（2019年10月14日公開）は好評を得、ハンセン病問題の理解を広め、普及啓発の充実につなげるという、当初の目的を果たすことができた。また、「ハンセン病家族訴訟」の熊本地裁判決の確定をうけて、厚生労働省難病対策課が示した「国立のハンセン病資料館」における普及啓発の取組方針にも示されたように、名誉回復の対象が元患者・回復者のみならず、その家族・遺族に広がったことに対しても時宜を得た取り組みになった。重監房資料館では、「遺族ふたり」の制作経験を踏まえ、「続編」である遺族証言映像「続・遺族ふたり」の制作を企画し、「無癪県運動」について焦点化を意識し、2020年度にロケーションハンティングを兼ねたシナリオハンティング、2021年に証言映像制作のラッシュ（撮影原版）作成を終え、2022年11月末に映像が完成し、納品された。

完成・納品：11月30日

制作：株式会社オフィス・モト

撮影・調査場所：

6月17日 長島愛生園（山本園長・愛生園歴史館への協力依頼）

6月29日 東京（出演者・木村真三氏との打ち合わせ）

8月31日～9月3日 長島愛生園（出演者・木村真三氏、山本園長・愛生園歴史館との企画展撮影打ち合わせ）

10月4日～8日 獨協医科大学、長島愛生園（出演者・木村真三氏との打ち合わせ、撮影）

10月11日 獨協医科大学（出演者・木村真三氏との打ち合わせ）

10月29日 国立ハンセン病資料館（出演者・内田館長との打ち合わせ、撮影）

10月30日～11月2日 愛媛県北宇和郡域（出演者・木村真三氏、池内了氏との打ち合わせ、追加調査・踏査）

11月11日～13日 京都（出演者・木村真三氏との池内了氏インタビュー撮影）

11月29日～30日 東京（最終スタジオチェック、完成）

2月24日～25日 制作・撮影協力者への完成報告、挨拶回り（鬼北町・松野町）

3月10日 DVD増刷（2023年3月10日 100セット）

2023年度映像公開予定。（上映会、DVD、BD配布等）

4. イベントの開催

- ・ハンセン病者の歴史と密接な関わりを持つ草津町内に点在するハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティアガイドの案内で徒歩で巡るウォーキング・ツアー「初めてのハンセン病史ーもうひとつの草津温泉ー」の開催。

実施日：2022年7月23日、7月30日、8月6日、9月17日（※8月13日、9月24日：雨天中止）

コース：草津温泉バスターミナル→光泉寺→湯畑→旧湯之澤区（大滝の湯、中和工場）→頌徳公園→リーかあさま記念館→八十八ヵ所→湯之澤共同墓地及びリー女史墓所→門衛及び重監房跡→社会交流会館→重監房資料館→解散
（所要時間 約5時間）

参加者数：26名 ボランティアガイド：3名

- ・2022年度企画展「希望（のぞみ）絶たれても なお ～重監房収監者の人生～」ギャラリートークの開催。

実施日：2022年8月3日、8月25日、9月9日 各30～45分程度

会場：第1展示室、第2展示室

参加者数：34名

解説：松浦志保（当館学芸員）

実施概要：2022年度企画展の展示解説を、展示室に於いて、自由参加の形式で行った。（一部中高生事前申込参加）

- ・2022年度企画展「希望（のぞみ）絶たれても なお ～重監房収監者の人生～」オンライン配信による企画展展示解説の実施。

実施日：2022年11月11日 開催時間60分程度（オンライン配信形式）

参加者数：63名

解説：黒尾和久（当館部長）、松浦志保（当館学芸員）

実施概要：2022年度企画展の展示解説を、事前申込参加、オンライン配信の形式で行った。

5. 刊行物の発行

- ・瀬木悦夫復刻シリーズ2 『われとわが身を』の復刻をした。

2021年度企画展「重監房を報道した男 関喜平展」会期中に発見された、故関喜平氏遺品の同人誌『本格的小説』に掲載されていた瀬木悦夫（関喜平）の小説『われとわが身を』の復刻をした。

発行：2022年11月30日

部数：3,000部

6. 学校教育支援活動

1) 学校教育への支援

- ・台東区立柏葉中学校において、文部科学省人権教育研究指定校事業の一環として、黒尾和久部長が「ハンセン病問題と重監房」と題した講演を行った。（於：台東区立柏陽中学校第一体育館 ※Web講演、2022年7月2日）
- ・国立市立国立第三小学校「『共に生きる』総合の学習」において、黒尾和久部長が「『共に生きる』人と人とのつながり」と題した講演を行った。（於：国立市立国立第三小学校、2022年9月9日）
- ・獨協医科大学1学年リベラル・スタディ授業において、黒尾和久部長が「ウクライナ侵攻と国際社

会：戦争と人権」と題した講義を行った。（於：獨協医科大学、2022年10月5日）

- ・東村山市立東村山第六中学校「人権教育講演会」において、黒尾和久部長が「人権感覚を磨き、そして行動するために ～多磨全生園のこと。知ったあなたは、どうしますか？～」と題した講演を行った。（於：東村山市立東村山第六中学校体育館、2022年10月28日）
- ・長野原町立東中学校「人権講演会」において、黒尾和久部長が「ハンセン病問題から考える人権について」と題した講演を行った。（於：長野原町立東中学校体育館、2022年11月25日）
- ・東村山市立東村山第一中学校「人権についての学習」において、黒尾和久部長が「ハンセン病問題から考える人権 ～どんな人も、人は人～」と題した講演を行った。（於：東村山市立東村山第一中学校体育館、2023年2月4日）
- ・愛媛大学「集中特別講座『博物館情報・メディア論』」授業において、黒尾和久部長が「我が国におけるハンセン病隔離政策の実態について」と題して、続・遺族ふたりの映像製作にかかわるエピソードについて、学芸員の立場からのコメンテーターを担当した。（於：愛媛大学 ※Web参加、2023年3月1日）

2) 学校・教育委員会への公報活動

新型コロナウイルス感染防止のため、群馬県内外の市町村等の外部への訪問は自粛をした。

3) 学校団体来館

前述のとおり、新型コロナウイルス感染防止のため、館内見学者数や展示解説なし、という制限を設けて学校団体を受け入れたが、2022年度においても、学校側の見学自粛の傾向が見られた。

- ・小学校、中学校、専門学校、大学計32団体、311人が来館（全団体の1割弱）。

7. 広報活動

1) レンタルDVDの貸出

当館PR・事前学習用DVD「重監房資料館への道」、ハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり」の随時貸出を行った。

2) 刊行物の配布

当館の刊行物である『重監房跡の発掘調査』、『門衛所跡の発掘調査』、瀬木悦夫復刻シリーズ1『実話小説特別病室』、瀬木悦夫復刻シリーズ2『われとわが身を』を、来館者等の各方面の希望に応じて、随時、配布、送付作業を行った。

8. 栗生楽泉園との連携

1) 栗生楽泉園・重監房資料館双方を見学する来館者への対応

- ・栗生楽泉園と重監房資料館の両方を見学する来館者対応について、栗生楽泉園福祉課の見学担当者との連絡を励行した。

2) 栗生楽泉園新採用者オリエンテーションへの協力

- ・4月1日付栗生楽泉園新採用職員に対する研修としての見学受入を行ったが、新型コロナウイルス感染防止のため、映像や展示資料を用いてのハンセン病問題と特別病室（重監房）の歴史解説や研修講演等は自粛された。（2022年4月1日）

3) その他

なし

Ⅲ 再現・展示機能

1. レクチャー室

1) ガイダンス映像の上映

- ・一般向けガイダンス映像「重監房の記憶」を上映した。(約25分)
- ・小・中学生向けガイダンス映像「楽泉園の子供たち」を上映した。(約18分)

2) その他の利用

各種研修・学習会等に利用した。(新型コロナウイルス感染防止のため、極力自粛をした。)

3) その他

- ・レクチャー室の壁面を利用して、資料展示をしている。(主に写真家黒崎彰氏の写真作品)
- ・「研文庫」の公開

レクチャー室に研雄二氏の寄贈図書についての図書コーナー「研文庫」を公開し、随時、図書整理を行った。(2020年度より継続中)

2. エントランス・ホワイエ

1) ハンセン病に関する展示

ハンセン病について解説したパネル「ハンセン病について」と治療薬サンプルの常設展示及び「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」(重監房を含む)のほか、企画展示(黒崎彰写真展序章部等)を行っている。

2) 普及啓発コーナー

新聞や雑誌の関連記事とともに、関係啓発施設や近隣災害情報、厚労省の公報等、必要なお知らせについて掲示した。

3) その他

展示資料の保全、新型コロナウイルス感染防止、資料周辺への接近、接触回避を目的に結界や案内表示設置を施した。

3. 常設展示

1) 第1展示室

■特別病室(重監房)のジオラマ

縮尺20分の1の再現模型を展示し、特別病室(重監房)の全体像や立地の俯瞰的学習を可能にした。

■収監者のパネル

93人の収監者のプロフィールをパネル化し、時系列に沿って展示することで、収監実態が分かるよう工夫した。

■再現映像の上映

現存する資料や入所者の証言に基づき、収監者の特別病室(重監房)内での様子を再現した映像

を上映した。(約8分)

■実寸大で部分再現された「特別病室（重監房）」の内部

医務室や独房につながる通路、夏と冬のふたつの独房を実寸大で忠実に再現している。また、学芸員が同行する館内ガイドツアーでは、見学者は実際に再現された独房の内部に入り、扉の閉鎖や施錠された時の絶望感を体感できるようにしている。加えて、立地条件を現実的に体験できるよう、昼間と夕暮れの日差しの雰囲気照明機器を自動的に調整し、臨場感を演出している。

(新型コロナウイルス感染防止のため、館内ガイドツアー、独房内部への立ち入りの見学は中止をした。)

2) 第2展示室

■ハンセン病問題の年表

我が国におけるハンセン病問題にまつわる主な出来事を、明治時代以降を年表にして時系列に掲示した。また、日本ニュース社が昭和22年に撮影した実際の特別病室（重監房）の映像視聴ができるようにした。

■出土遺物発掘報告コーナー

遺物を通して特別病室（重監房）の過酷さを伝えることを目的に、特別病室（重監房）跡地の発掘調査によって出土した遺物と解説パネルの展示を行った。南京錠の実物大写真、独房内の便槽写真、建材である木片、弁当箱、差し入れ品などを展示した。

■証言映像コーナー

タッチパネル式のパソコンにより、複数の元患者の証言映像の視聴ができるようにしている。

3) 展示の更新

■レクチャー室

- ・壁面を利用し、随時、展示の変更を行っている。

■エントランス・ホワイエ

- ・展示導入エリアとして随時、資料展示を行い、展示替も行っている。

■第1展示室

- ・2022年度企画展に合わせ、「重監房の収監者」一覧の一部を改訂した。

■第2展示室

- ・展示資料の増加に伴い、展示可動壁や大型モニターを使った動画等（特別病室（重監房）跡発掘記録動画、「遺族ふたり」他）を活用して、随時、展示手法、レイアウトの変更を行っている。
- ・写真家黒崎彰氏撮影の重監房跡地発掘調査の情景や、重監房資料館開館に尽力された関係者の写真作品を展示として追加した。随時、展示の変更も行っている。

4) その他

展示室には、展示資料の保全、新型コロナウイルス感染防止、資料周辺への接近、接触回避を目的に、結界や案内表示設置を施している。

4. 企画展示

- ・企画展「希望（のぞみ）絶たれても なお ～重監房収監者の人生～」開催。

会 期：2022年7月20日～11月13日

場 所：第2展示室

来館者数：1,845人

作 品 数：約40点

1938（昭和13）年に栗生楽泉園に設置された「特別病室」（重監房）に収監された、未だに不明な点が多い延べ93人の収監者について、重監房に送られる前はどのような生活をしていたのか、重監房を生きて出たその後の人生がどのようなものであったのか、そのライフストーリーを追跡、調査し、新たに判明した事柄を常設展に加える形式により、企画展として展示公開した。

5. その他

- ・市販玩具ブロックを利用、製作した児童向け監禁室模型を展示している。（展示場所はレクチャー室の他、随時移動。）
- ・各展示エリアの照明デザインについて、メーカー担当者と検証、随時更新している。（2019年3月より継続中。）
- ・栗生楽泉園社会交流会館との、企画展等についての作業協力、サポートを行った。
- ・群馬県立歴史博物館より、第109回企画展「温泉大国ぐんま（仮）」（2023年10月7日～11月26日）への展示資料貸出依頼を受け、協力作業を開始した。

Ⅳ 情報発信機能

1. ホームページ

- ・2022年度ホームページアクセス数は40,001件であった。
- ・新着情報の追加掲載、外部へのリンク追加、各ページのメンテナンスを行った。
- ・新しいホームページ案について検討を始めた。

重監房資料館 ホームページ <https://www.nhdm.jp/sjpm/>

2. 広報資料の作成・発行

- ・資料館だより『くりう』No. 20を発行した。(2022年7月10日 10,000部)
- ・資料館だより『くりう』No. 21を発行した。(2022年12月1日 10,000部)
- ・資料館だより『くりう』No. 22を発行した。(2023年3月29日 10,000部)
- ・夏期企画展チラシ発行(2022年7月5日 5,000部)。
- ・「瀬木悦夫復刻シリーズ2 『われとわが身を』」発行(2022年11月30日 3,000部)。
- ・ハンセン病人権啓発映像「続・遺族ふたり」(仙太郎大伯父編増補版・無頼県運動の真実) DVD増刷(2023年3月10日 100セット)
- ・発掘調査報告書「門衛所跡の発掘調査」増刷(2023年3月31日 1,500部)

※資料館だより『くりう』は、各ハンセン病療養所、関係者、関係機関、団体に、毎号約6,000部を配布した。

3. マスコミ対応

1) マスコミ各社からの取材対応を行った。

テレビ：5社 新聞社：12社 その他：1社

2) テレビ放映

- ・群馬テレビ「ぐんま！トリビア図鑑：もう一つの草津の歴史・重監房」(2023年1月24日、1月30日)
- ・KSB瀬戸内海放送「News Park KSB」
ハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり『仙太郎おじさん！ 貴方は確かにそこにいた』より10箇所映像提供放映。(2023年2月20日)

4. その他

- ・希望者や旅行会社等に対し、リーフレット、チラシ等を送付した。(随時)
- ・新型コロナウイルス感染防止のため、群馬県内外の自治体、観光関係施設等の外部への訪問は自粛をした。

V 管理機能

1. 新型コロナウイルス感染防止対応

新型コロナウイルス感染防止のため、主に以下の対応を行った。

- ・2021年度までは開館時間の縮小対策を講じたが、2022年度は、従来通り、フルオープン期 9:00 ～ 16:00、冬期予約期間10:00 ～ 15:30の開館時間で対応をした。
- ・館内見学者を下記のように制限。
 - 4月1日～4月25日・・・常時10人以下。
 - 4月26日以降・・・常時50人以下。
- ・来館者への検温実施、マスク着用の要請
- ・消毒用アルコールの設置
- ・ソーシャルディスタンスの確保
- ・団体解説の自粛
- ・展示資料接近、接触回避のための各種案内表示設置
- ・館内消毒の励行（机、いす、筆記用具他）

2. 施設運用のための必要機能の整備

1) 施設整備・更新

資料館の施設の機能、サービスの提供が良好に行われるよう、設備等の点検、保守、修理交換作業、報告、訓練等を行った。

- ・植栽定期メンテナンス（2022年8月17日～23日）
- ・消防用設備機器点検（2022年10月7日）、消防用設備総合点検（2023年3月30日）の実施
- ・館内空調定期点検、館内環境測定の実施（2022年11月25日～26日）
- ・法定設備点検、法定建築点検の実施（2022年11月30日）
- ・消防訓練（2023年3月30日）の実施
- ・水道管水質問題調査、清掃対処（2021年1月より継続中）
- ・屋根上点検・清掃（随時）
- ・春季～夏季における除草、植栽等環境整備
- ・冬季における除雪、防風雪対策、屋根上降雪前点検（樋ヒーター交換他）、簡易清掃
- ・物品の無償貸付の申請等の厚生労働省へ提出
- ・水道設備、映像機器、トイレ、自動ドア、温湿度管理機器等各種機器故障交換対処

2) 博物館施設、関係機関との連携活動

- ・日本博物館協会、群馬県博物館連絡協議会等、関係各種事務手続き等を行った。

VI 2022 年度利用状況

1) 開館日数

2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）の開館日数は、303日であった。

2) 入館者数

2022年度の各月入館者数、及び各月の開館日に対する1日あたり平均入館者数は以下の通りであった。

※ 新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言及び感染防止対策継続の必要性等の理由により、館内見学者数制限を行った。

2022年4月1日～4月25日 10人まで

2022年4月26日～2023年3月31日 50人まで

	入館者数（人）	開館日（日）	1日平均（人）※	備考
4月	205	26	7.88	フルオープン期間 （4月26日～11月14日）
5月	380	26	14.62	
6月	288	26	11.08	
7月	463	27	17.15	
8月	475	25	19.00	
9月	421	26	16.19	
10月	482	26	18.54	
11月	408	24	17.00	冬期予約期間 （11月15日～4月25日）
12月	54	24	2.25	
1月	82	24	3.42	
2月	111	23	4.83	
3月	131	26	5.04	
合計	3,500	303	11.55	

※「1日平均」入館者数は小数点第3位を四捨五入

【入館者数平均】11.6人/日

【団体利用状況】243団体1,273人（学校団体：32団体311人）

利用案内

国立ハンセン病資料館

【交通アクセス】

- ・西武池袋線清瀬駅南口から、久米川駅北口行きバスで約10分(「ハンセン病資料館」下車すぐ)
- ・西武新宿線久米川駅北口から、清瀬駅南口行きバスで約20分(「ハンセン病資料館」下車すぐ)
- ・JR武蔵野線新秋津駅から、久米川駅北口行きバスで約10分(「全生園前」下車、徒歩約10分)、または徒歩約20分
- ・西武池袋線秋津駅より徒歩約20分
- ・関越自動車道所沢インターチェンジから車で約30分

【開館時間】

午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

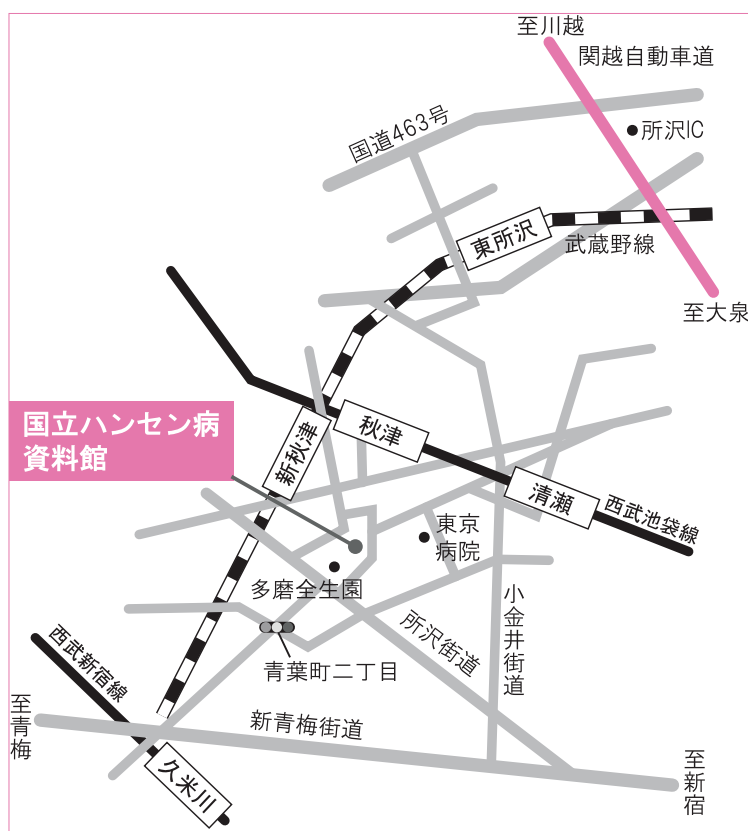
【休館日】

毎週月曜日(祝日の場合は開館)、国民の祝日の翌日、年末年始、館内整理日

【入館料】

無料

〒189-0002 東京都東村山市青葉町 4-1-13



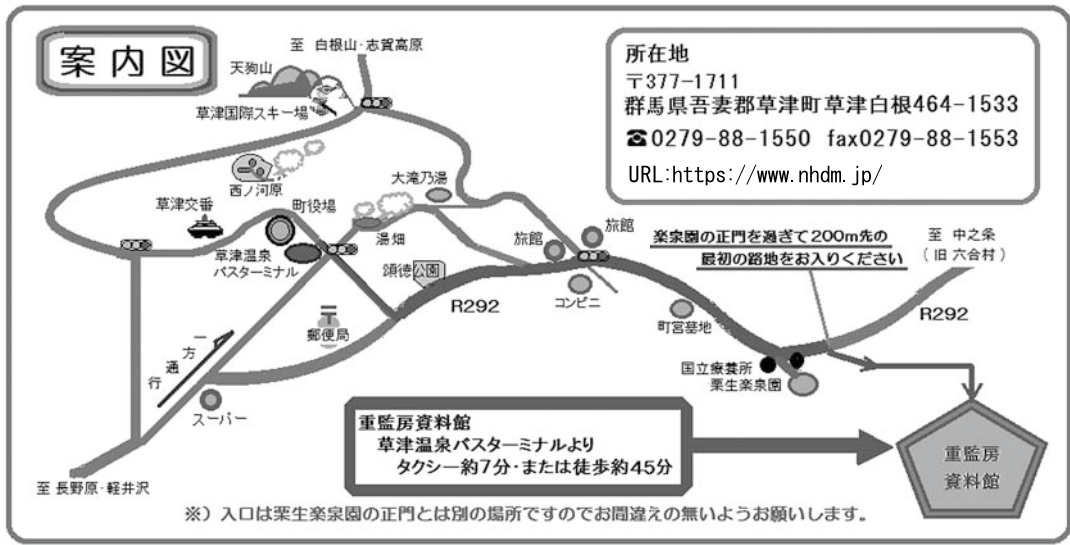
電話 042-396-2909 FAX 042-396-2981

URL: <https://www.nhdm.jp/>

重監房資料館

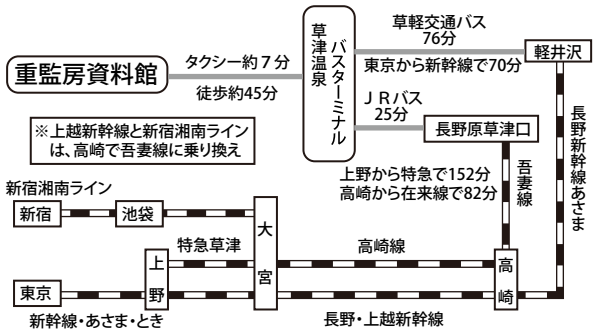
区分	フルオープン期間 (4/26 ～ 11/14)	冬期予約期間 (11/15 ～ 4/25)
受付対象	個人及び団体・学校	個人も事前予約制
開館時間	午前 9 時 30 分～午後 4 時 00 分 (最終入館 3 時 30 分)	午前 10 時 00 分～午後 3 時 30 分 (最終入館 3 時 00 分)
休館日	毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、国民の祝日の翌日、年末年始、館内整理日	

入館料：無料

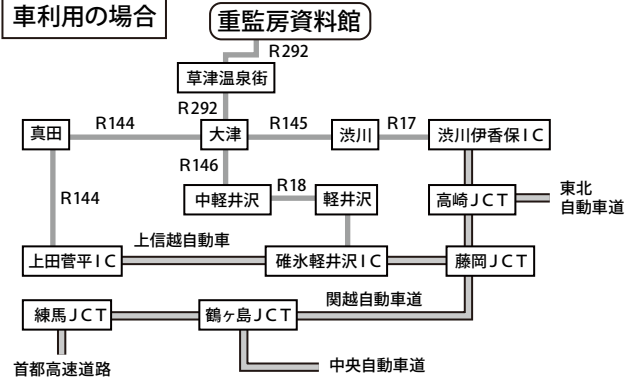


交通アクセス

鉄道・バス利用の場合



車利用の場合



〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533

電話 0279-88-1550 FAX 0279-88-1553

URL : <https://www.nhdm.jp/sjpm/>

国立ハンセン病資料館 重監房資料館 2022 年度 年報

2023 年 12 月 1 日 発行

編集・発行 国立ハンセン病資料館

〒189-0002 東京都東村山市青葉町 4-1-13

電話 042-396-2909 FAX 042-396-2981

URL: <https://www.nhdm.jp/>
